

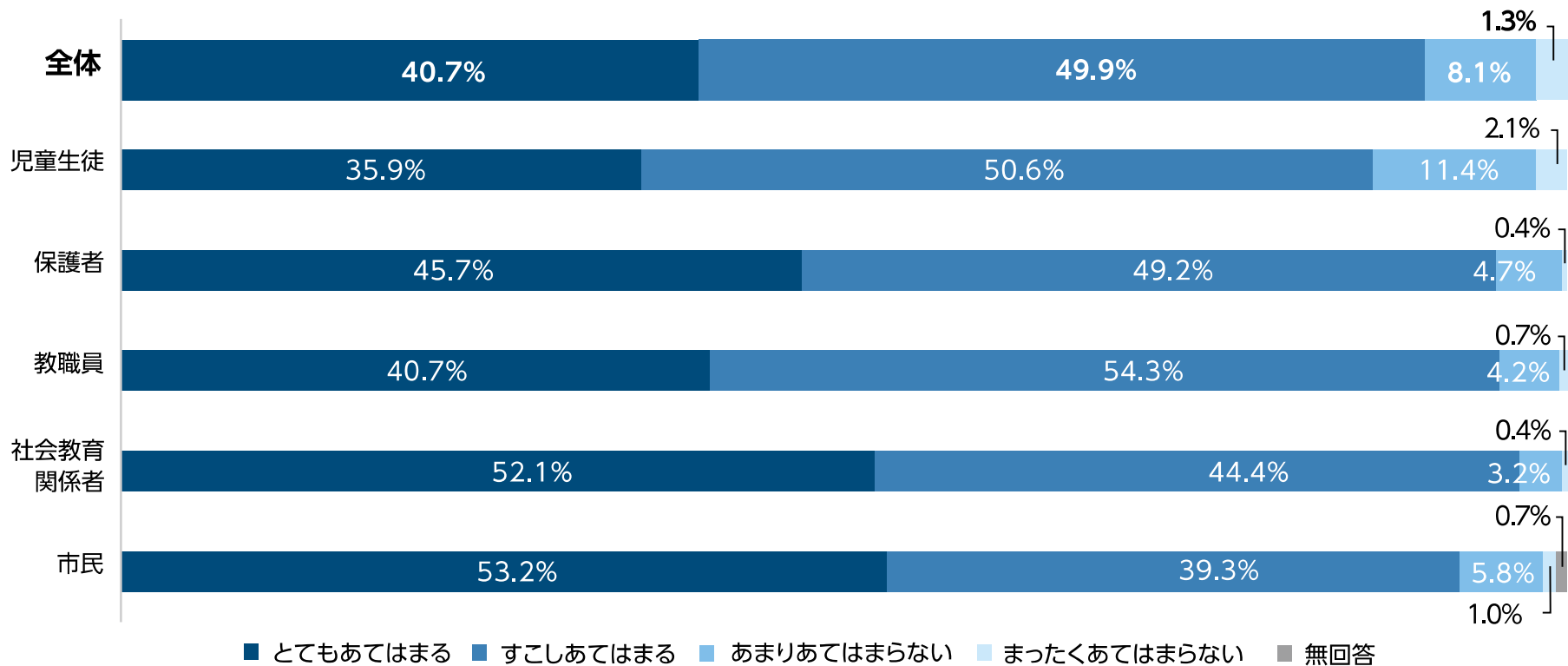
Q3 前問のような大人になるためには、どのような資質や能力が必要だと思いますか。
当てはまるものを3つまで選んでください。

- ✓ 全体では、「問題を解決するための思考力・行動力」が最も多く、約半数が回答している。
- ✓ 次いで「他者への思いやりを持ち、多様な意見や考えを尊重する力」、「失敗を恐れず挑戦する力」の順で多く回答している。
- ✓ 児童生徒においては、「基礎的・基本的な知識・技能」が最も多く、それ以外の属性の回答者と異なる結果となった。

選択肢	全体 n=69,283	児童生徒 n=35,351	保護者 n=29,713	教職員 n=2,670	社会教育関係者 n=284	市民 n=1,265
問題を解決するための思考力・行動力	① 46.4%	③ 39.0%	① 55.0%	② 46.6%	① 54.2%	② 46.2%
他者への思いやりを持ち、多様な意見や考えを尊重する力	② 41.7%	33.4%	② 48.9%	① 62.5%	② 52.8%	① 56.2%
失敗を恐れず挑戦する力	③ 41.2%	② 46.1%	37.0%	31.6%	25.0%	27.0%
基礎的・基本的な知識・技能	37.8%	① 46.8%	28.2%	28.5%	32.0%	③ 36.0%
自分の考えを持って、表現する力	34.2%	28.3%	③ 41.4%	33.5%	32.7%	31.4%
自ら主体的に学びに向かう力・姿勢	33.8%	27.6%	40.5%	③ 38.6%	③ 41.2%	34.5%
違う意見の人と歩み寄って、解決方法を決めていく力	16.4%	12.3%	19.8%	28.1%	30.6%	22.4%
新しいものや考えを生み出す創造的な力	12.7%	16.5%	8.7%	7.2%	14.1%	12.6%
社会生活に必要な常識やきまりを守る力	12.5%	13.2%	11.0%	16.5%	9.5%	18.2%
集団の中で意見をまとめていくリーダーシップ	7.5%	12.8%	2.0%	1.3%	2.5%	2.2%
その他	0.8%	1.1%	0.5%	0.6%	0.4%	1.0%
無回答						0.4%

Q4 あなたは、学校において、社会の変化に合わせてこれまでとは違う新しい学び方を取り入れるべきだと思いますか。

- ✓ 全体の約9割が、学校においてこれまでとは違う新しい学び方を取り入れることについて、肯定的な回答をしている。
- ✓ 回答者の属性別にみたところ、児童生徒の肯定的な回答が全体よりも低い割合となっている。

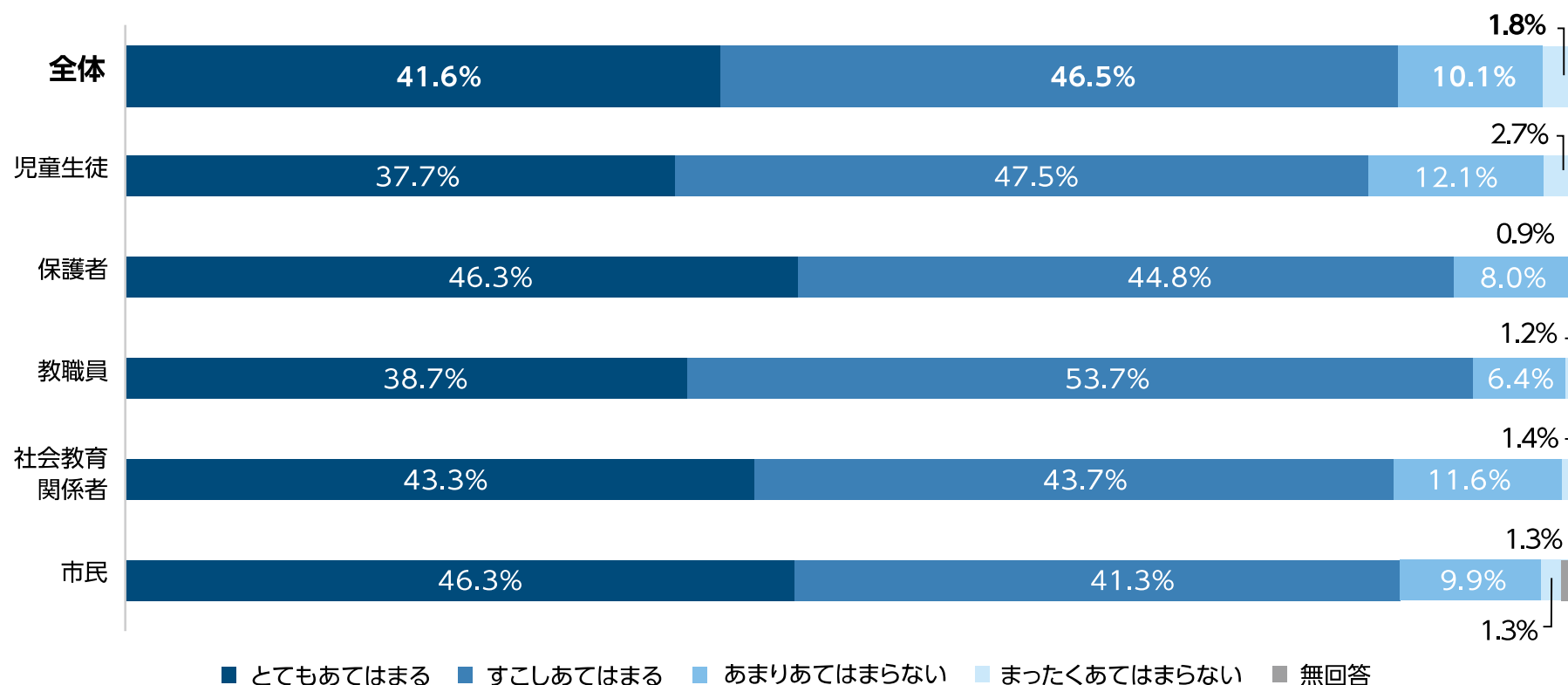


Q5

あなたは、学校における日々の学習状況や学校生活の記録などのデータを、学校での学びや児童生徒への指導の改善に役立てていくべきと考えますか。

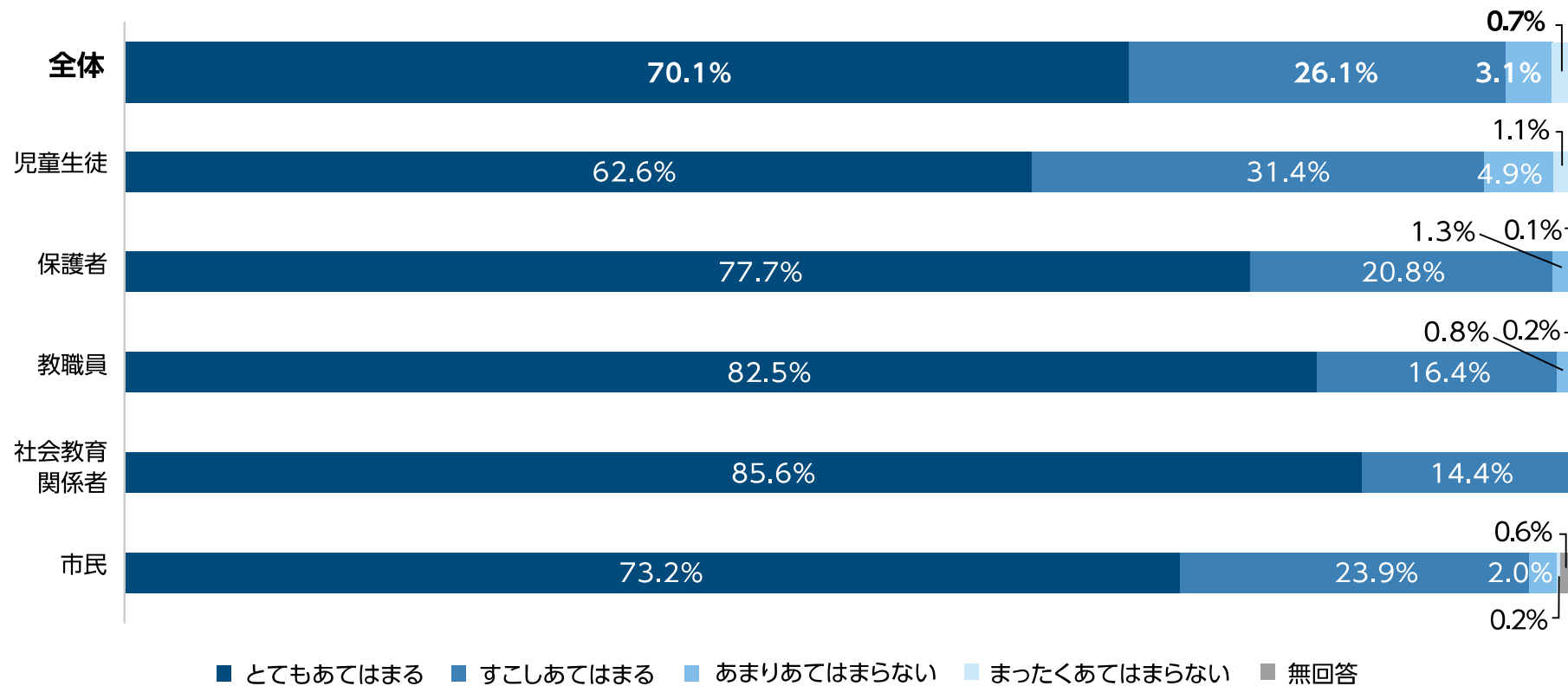
※児童生徒に対しては「日々の学習状況や学校生活の記録などのデータを、自分の学習や生活をよりよくすることに役立てたいと考えますか。」との設問

- ✓ 全体の約9割が、日々の学習状況や学校生活の記録などのデータを学校での学びや児童生徒への指導の改善に役立てることについて、肯定的な回答をしている。
- ✓ 回答者の属性別にみたところ、児童生徒の肯定的な回答が全体よりも低い割合となっている。



Q6 あなたは、学校を卒業した後も、生涯を通じて学び続けることは重要と考えますか。

✓全体の9割以上が、生涯を通じて学び続けることが重要と考えている。



Q7 「人生100年時代」において、あなたは、学校以外でどのように学び、活動していくことが必要だと思いますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

- ✓ 全体では、「人生の各場面で生じるさまざまな課題に対応して学んでいくこと」が最も多く、約6割が回答している。
- ✓ 次いで「多様な年代や多彩な属性の他者と共に学んでいくこと」、「生涯にわたって能動的に学び続けること」の順で多く回答している。

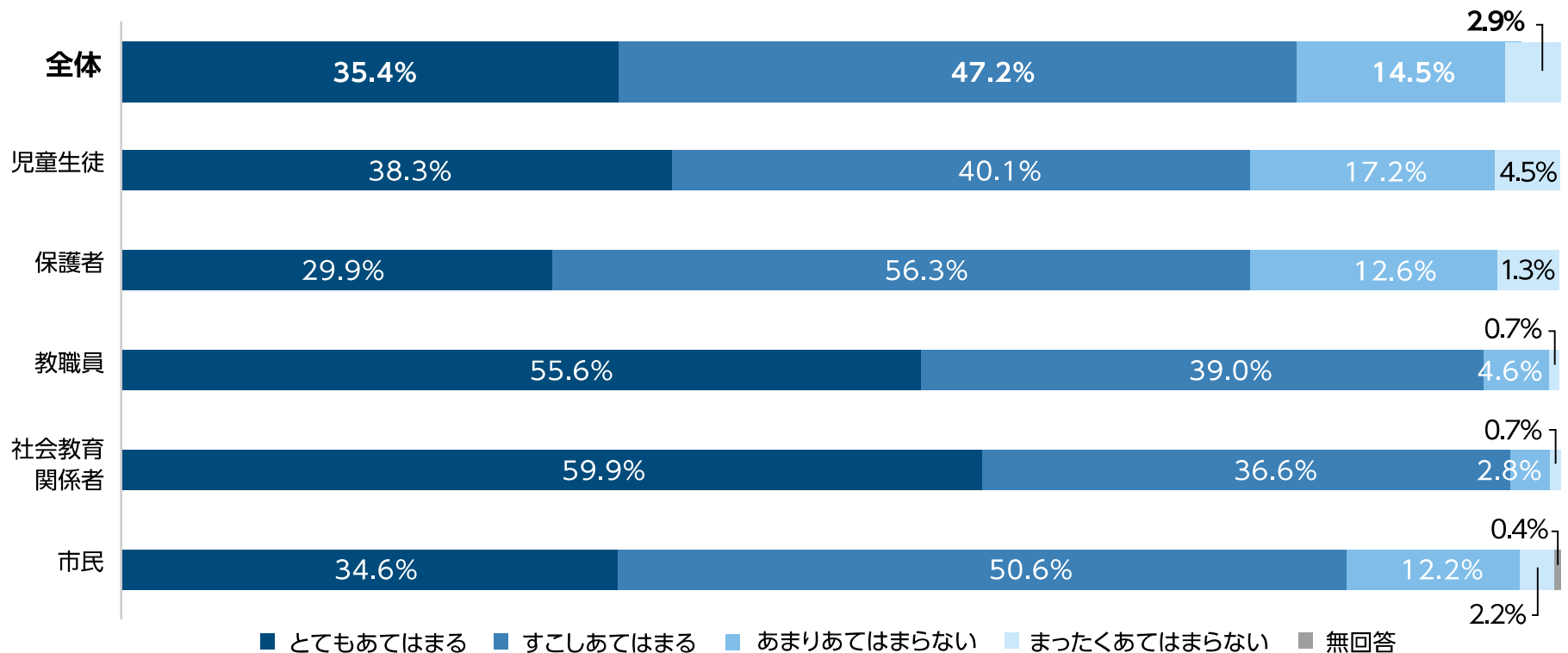
選択肢	全体 n=1,549		社会教育関係者 n=284		市民 n=1,265	
	順位	割合	順位	割合	順位	割合
人生の各場面で生じる様々な課題に対応して学んでいくこと	①	54.5%	③	46.1%	①	56.2%
多様な年代や多彩な属性の他者と共に学んでいくこと	②	53.6%	①	61.3%		51.2%
生涯にわたって能動的に学び続けること	③	52.9%	②	55.3%	③	52.0%
社会の変化に対応していくため、必要となるスキル等を学び続けること		52.1%		39.1%	②	54.9%
地域社会の担い手につながるような学びや活動		18.1%		27.8%		15.6%
地域の住民自身が主体的に教え、学び合う当事者となるような活動		14.5%		26.8%		11.6%
関係機関との連携やICTの利用などにより誰一人として取り残すことのない学びや活動		13.3%		12.0%		13.6%
その他		1.4%		0.7%		1.6%
無回答						0.9%

Q8

あなたは、地域の人材や保護者などが、学校での教育活動や地域での子育てに積極的に関わっていくべきと考えますか。

※児童生徒に対しては「あなたは、家族以外の地域の大人たちと、交流したり話をしたりするなど、関わりたいと思いますか。」との設問

- ✓ 全体の8割以上が、地域の人材や保護者などが、学校での教育活動や地域での子育てに積極的に関わっていくべきと考えている。
- ✓ 回答者の属性別にみたところ、児童生徒の肯定的な回答が全体よりも低い割合となっている一方で、教職員と社会教育関係者の回答が全体よりも高い割合となっている。



Q9 【自由記述】あなたが今後の川崎市の教育に期待することがあれば教えてください。

概略

- 児童生徒へのアンケートでは、思いやりある教育や教育環境の改善、グローバル教育の拡充、多様性の尊重などの意見が多く出された。特に、いじめの減少や未来を見据えた教育の実現が求められている。また、プログラミング教育やデジタル化の推進、健康管理や安全対策の強化、経済的支援の無償化についての意見も目立った。
- 保護者へのアンケートでは、英語教育の強化や多様性・個性の尊重、教育環境の改善、地域と学校の連携などの意見が多く出された。また、教科担任制の増加やアクティブラーニングの導入、教師の質の向上、インクルーシブ教育の推進などについての意見も目立った。
- 教職員へのアンケートでは、教育環境の改善やICT利用の推進、働き方改革の推進、教育予算の拡充などの意見が多く出された。また、教職員の人員確保や労働環境の改善、学級の規模縮小、多様性を尊重する教育などについての意見も目立った。
- 社会教育関係者へのアンケートでは、国際感覚の育成や自主性、問題解決力の向上、教育機会の充実、教員不足の解消と負担軽減などの意見が多く出された。また、異文化交流や多様性の受け入れ、ICTの活用、貧困対応などについての意見も目立った。
- 市民へのアンケートでは、平和教育や教育環境の改善、多様性への理解などの意見が多く出された。また、世界の現状を学ぶことや地域と教育の連携、多様性教育の推進などについての意見も目立った。

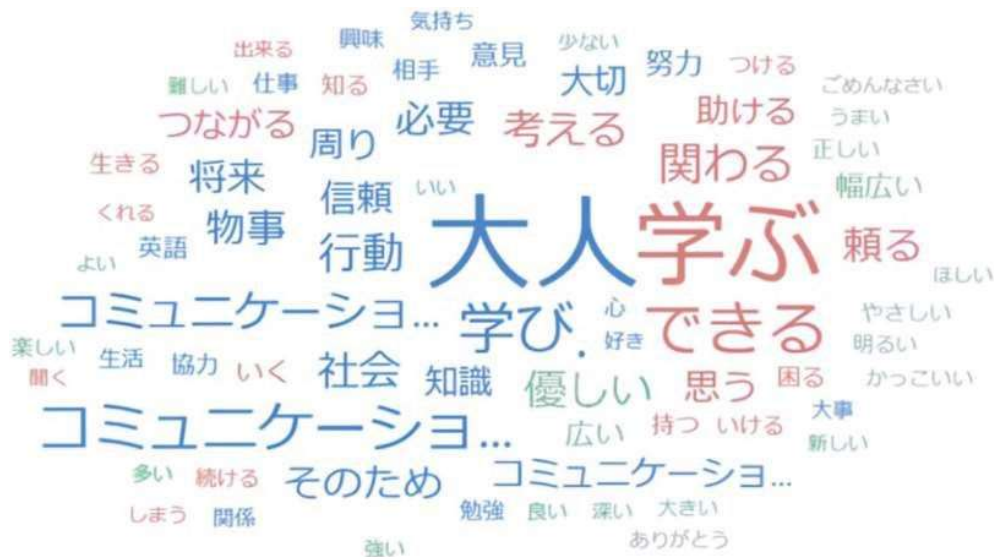


区分		団体等		人数	場面
学校教育関係	児童生徒	小学校	旭町小学校(6年生) 上丸子小学校(6年生) 西菅小学校(6年生)	282人	総合的な学習の時間(4/24) 特別活動(7/11) 総合的な学習の時間(6/27)
		中学校	塚越中学校(1年3組) 住吉中学校(2年生) はるひ野中学校(生徒会)	149人	特別活動(6/19) 社会科授業(7/17) 生徒会(7/2)
		高等学校	橘高等学校(3年生)	241人	HR(6/3・10)
		特別支援学校	田島支援学校高等部 (1~3年生)	127人	生徒総会(7/17)
		川崎市子ども会議		26人	(6/16)
	教職員	教職員	876人	学校支援連絡調整会議(2/14) キャリア担当者研修(4/26) 新任校長研修(7/24) 教頭研修(7/29) 中堅教諭等資質向上研修(7/29) 3年目教員研修(8/27)	
社会教育関係	PTA		16人	川崎市PTA連絡協議会理事会(5/2)	
	地域関係者		14人	地域教育ネットワーク推進会議(8/7)	
	社会教育関係者		13人	社会教育委員会議(9/11)	
合計				1,744人	—

☞ 児童生徒意見まとめ

- 児童生徒からは、周りを見て行動する、自分にできることを考え行動できるなど、**行動できる力**を身につけたいとの意見が多く出された。
- また、人を助ける、社会に貢献する、社会のルールを理解するなど**社会で役立つ大人**になることを望んでいる意見も目立った。
- さらに、他の人を大切にできる、家族を大切にできる、みんなに信頼されるなど、**周りの人を大切にする大人**という意見も目立ち、あわせて、友達や家族に**優しい大人**という意見も目立った。
- ワード分析で見られる「**コミュニケーション**」というワードは、コミュニケーション力が高いと、相手を安心させることができることや、チームが団結するためにコミュニケーション力をつける、誰に対しても関係なく優しくできるためにコミュニケーション力をつけるという具体的な行動に対するワードとして出ている。

ワードクラウド



多く出された言葉

① 行動	125件
② 周り	106件
③ コミュニケーション	100件
④ 勉強・授業・学習	95件
⑤ 将来・未来	81件

※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

1 小学校での主な意見

自分のこれからの人生や将来を考えたとき、どのような大人になりたいか?そのためには、どんな力が必要か?

- 思いやりが持てて、頼られる大人になりたい。そのためには相手のことを考えて、自分から何か始める力、自ら進んで挑戦できる力が必要
- 自分の仕事を全うできるような大人になりたい。そのためにはまわりにいる人と協力して活動することが大切だと思う。
- 口だけじゃなくて行動に移せる力と大人になりたい。
- みんなに優しく接する人。みんなに優しく接することで笑顔が増えるから。
- 優しく思いやりがある人。思いやりと意外と難しいから、その難しい事をできるようにしたい。
- 夢を追い続けるような大人。そのためには、あきらめない力、努力、行動力が必要
- 自分で川崎を作って、たくさんの幸せをさらに増やすことのできる大人



旭町小学校

2 中学校での主な意見

自分のこれからの人生や将来を考えたとき、どのような大人になりたいか?そのためには、どんな力が必要か?

- 誰かのためになることがあたりまえにできる人。道とくなどの親切な人のことを学びたい。
- 自分の得意なことを活かして世界で活躍できる大人になりたい。世界に行くために自己表現する、自分の世界を表現できる力を身につけたい。
- まともな大人になりたい、礼儀とかがちゃんと身に付いてあるようにしたい。

自分のこれからの人生や将来を考えたとき、どんな学びをしていきたいか?

- 英語や漢字を勉強して何かを知っていても、知っていて使えなかったら意味がないから、その意味や使い方を理解して活用できるようになれるような学び
- コミュニケーション能力を育てる。将来人と関わっていく上で、コミュニケーションを取っていくことは、社会で生きていく上で必須になっていく。
- ビジネスに関すること、生活する上で注意すべきこと(税金とか)、お金の使い方



塚越中学校

3 高等学校での主な意見

自分のこれからの人生や将来を考えたとき、どのような大人になりたいか？そのためには、どんな力が必要か？

- 社会に貢献できるような大人。挑戦しないと社会には貢献できないから、何事にも挑戦する力が必要
- 人に夢、目標を与えられるような大人になりたい。そのためには、考えていること、思っていることを言葉としてきちんと表現する力や相手を想った発言、行動する力が必要
- 多くの課題を抱える日本の社会に大きく貢献できる人。世界的にビッグデータや情報が重要視されており、情報戦争という言葉が溢れているように多くのデータを扱える人が重要になってくると考える。

4 特別支援学校での主な意見

川崎市の教育に期待することは？

- 働くための知識をより多く取り入れることと、法的なことをもう少し教えてほしいです。勇気がたくさんある大人
- 思いやり、尊重をこれからもあるようにこれからもみんなにも与えてくれると期待しています。
- この先の子どもが明るく希望をもって豊かに暮らせて偏見や差別がなく非行に走らないでいられる世の中
- グレーゾーンに生きやすい制度を導入してほしい。



田島支援学校

5 川崎市子ども会議での主な意見

自分のこれからの人生や将来を考えたとき、どのような大人になりたいか？
そのためには、どんな力が必要か？

- 高齢者や障がいをもっている人に優しくできる大人
- 自分の特技を活かして誰かを幸せにできる人
- 人を勇気づけたり笑顔にできる大人になりたいです。
- 学校の総合的な時間のときに周りの人や地域の人々の気持ちとか考える時間を作る。
- 自分の好きなことをとことん楽しむ、楽しめる大人になりたい。
- 政治のしくみについて学校でもより深く学習する。



川崎市子ども会議

教職員の主な意見

本市の今後の教育で大切にしたいことは？

- 子ども一人ひとりの学び方を尊重した授業づくりをしていきたい。
- 個性の尊重を大切にしながら、一人ひとりが認められる教育活動
- 予測困難な時代の中で絶対に揺るがないものは「自分」
- 予測困難な社会になるからこそ自分で学ぶことを大切にしたい。
- 自分のことも認め、他人のことも認められる環境にしたい。
- 自分で考え、決める、行動することが大切になると考える。
- さまざまな不安があっても自信をもてるよう、自己肯定感を高める。
- 情報の取捨選択して自身の課題や必要な知識を身につける。



学校支援連絡調整会議



キャリア担当者研修



新任校長研修



中堅教諭等資質向上研修

1 川崎市PTA連絡協議会理事会での主な意見

どのような資質・能力を持った子どもを育てたいか？
学校の教育活動で大切にしてほしいこと、大切にしたいことは何か？

- いろいろな体験のできる学び
- 親も学校も子どもも支えの必要な人や場合について知る。
- 他者との比較でなく、個性の自覚などで自分の存在を認識できるようになる教育
- 教育活動は学校内でだけでなく、地域や専門分野と行う。
- 他の子と比べず、自分の持っている個性に自信を持ってほしい。
- 先生から教わるのではなく、自分が教える、友達から教わる。
- 子どもの好きな事、好きな物のその先を見通せる力、想像力
- 川崎で教育を受けて良かったと思える教育



川崎市PTA連絡協議会理事会

2 地域教育ネットワーク推進会議での主な意見

子どもたちに将来どんな大人になってほしいか？そのために必要なこと、地域や大人ができることは何か？

- 価値観を認め合う多様性の世界に向け、大人があいさつや学習面で手本を見せる。
- 自分の思いと願いをもち、目標に向かって行動していける子
- 寺子屋の充実
- 相手の気持ちも考えて行動することができる子、思いやり
- 大人がさまざまな事にいどむ姿を見せる。大人がチャレンジする。
- 「ありがとう」と「たすけて」が言える。
- きちんとあいさつのできる子
- 困難にあたってもくじけずに立ち向かえる。



地域教育ネットワーク推進会議

3 社会教育委員会議での主な意見

「人生100年時代」において、市民が、学校以外でどのように学び、活動していくことが必要だと思うか？

ウェルビーイングを高める教育を推進する。

- 一人ひとりが自己肯定感を高め前向きにチャレンジできるようになるという観点を重視する。
- 一人ひとりが他者と対等な立場で協力できるようになるという観点を重視する。
- 一人ひとりが自立(自律)し自らが掲げた目的達成のために努力するようになるという観点を重視する。

誰一人取り残さない教育を推進する。

- 差別や偏見を克服し、高齢者や障がい者、外国人などを含めてすべての人の学ぶ権利を保障する。
- 「他人の困りごとを自分ごととしてとらえる」ことをとおして、すべての人が共に生きられる社会をめざす。
- すべての人が、高度情報通信ネットワーク社会を生きる知恵とスキルを身につける。

元気で持続的なコミュニティを創出する。

- 子どもの人権を擁護し、すべての子どもが夢を持ち自由でのびのびと生活できるような「子どもファースト社会」をめざす。
- 地域の行事や社会教育の活動をとおして、市民による「つながり」「学び合い」「助け合い」の拡充を図る。
- 地域と学校との協働をとおして、子どもの豊かな成長と市民同士の学び合いを推進する。

人生100年時代を支える社会的基盤を整備する。

- 格差や貧困を是正し、学び直しを含めて持続的で多様な学びを実践できるような環境を創る。
- 市民一人ひとりのニーズなどが多様化していることから、社会教育や福祉の専門職員等による「人に寄り添う行政」を推進する。



社会教育委員会議



社会教育委員会議

3 「次期かわさき教育プランに向けた考え方」に対する意見聴取

概要

区分		団体等		人数	場面	
学校教育関係	児童生徒	1 小学校	平間小学校(5・6年生) 鷺沼小学校(5・6年生)	372人	総合的な学習の時間(7/14) 総合的な学習の時間(7/18)	
		2 中学校	麻生中学校(1~3年生4クラス)	104人	総合的な学習の時間(7/16)	
		3 高等学校	川崎高等学校(1~3年生)	234人	総合的な学習の時間(7/18)	
	教職員	4 教職員			351人	第1回教育課程研究会(小)(6/4・6/11) 第1回教育課程研究会(中)(6/3) 川崎高校(7/18) キャリア担当者会議(4/25)
					13人	特別支援学校教職員(8/4・8/5)
					116人	小学校支援教育コーディネータへのアンケート(10/14~27)
					1,957人	業務改善等実践校(23校) ステージ別研修(全10回)(7/9~7回)
社会教育関係	5 PTA			28人	川崎市PTA連絡協議会理事会(6/27) オンライン説明会(7/30)	
	6 地域関係者			16人	地域教育ネットワーク推進会議(7/31)	
	7 社会教育関係者			26人	社会教育委員会会議(6/26・8/29)	
その他	8 スクールミーティング			11人	新城小学校(10/17)	
	9 不登校対策懇談会			11人	(8/29・9/1)	
合計				3,239人	—	

児童生徒意見まとめ

- 探究的な学びで身についた力として、どの学年でも「協力する力」「伝える力」「考える力」が広く挙げられていた。
- 特に、小中学生は、集団で「話し合い・まとめる・発表する」経験を通じた成長を実感し、高校生は、自分で発見した課題を深めていく過程に手ごたえを感じている。
- 探究的な学びへの期待として、人に「伝える力」を身につけることや、地域と関わりながら学習すること、具体的な行動や実効性を重視する意見や、主体的な探究活動や、興味あるテーマを深めたいという声が多く見られた。
- 高校生が小・中学校で身につけておきたかったこととして、地域・企業など外部の大人との関わりや発表の機会を挙げる意見が多かった。

教職員まとめ（探究的な学び関係）

- 地域や周囲の大人と関わりながら学ぶことを通して、子どもが自ら気づき・動き出す姿に成長を感じていることが多い。
- 児童生徒同士やさまざまな人との議論や交流を通して、子どものやる気や課題解決に向けた姿勢などが引き出されていることに手ごたえを感じている。
- 多くの教員は、子どもが主体的に学びに取り組むことができるような指導方法を意識したり重視している。
- 探究的な学びの系統性や計画性、教育活動全体への広がりを今後の課題として捉えている教員が多い。

教職員まとめ（支援教育関係）

- 特別支援学校の教員が小・中学校へ訪問する計画巡回訪問について、児童生徒の成長等を踏まえ、小学校高学年や中学校における実施方法についての意見が多かった。
- 特別支援学校のセンター的機能において、小・中学校の安心感や安定的な機能の発揮の観点から、専門職の必要性や配置などについての意見が多かった。
- 情報が一元化、共有化されることにより早期支援につながるなど、わかりやすい情報共有や情報の引継ぎの方法などについての意見が多かった。
- 専門職を含めて人材育成や研修の充実についての意見が多かった。

🗨️ 教職員まとめ (働き方・仕事の進め方関係)

- 研究授業などの回数削減、宿題の丸付けを家庭で行うなど、業務を工夫する提案があった。
- GIGA端末やドリルパークを活用するなどICTの活用に関する意見があった。
- モジュールの導入や掃除時間の短縮など、時間効率化の工夫が挙げられた。
- タイムマネジメントや業務の優先順位の設定、集中力の使い方を重視し、先生の笑顔を増やす働き方を求める声があった。

🗨️ 社会教育関係まとめ

- 社会教育の理念や可能性、生涯学習との関係などを再確認し、整理していく必要があるという意見があった。
- 市民館・図書館の認知度向上など、地域と大人の学びの充実や地域資源・施設の活用促進に関する意見が多くあった。
- 学校と地域や家庭との連携の強化や保護者・地域・学校が一体となって子どもを支えるしくみを強化すべきとの意見が多く、地域資源を活用した実践的な学びや、地域住民との交流を通じた子どもの成長への期待、情報共有の方法などに対する意見があった。
- 新しい人が参加しやすい地域活動のしくみづくりやつながりを生む場づくりを求める意見があった。

1 小学校での主な意見

探究的な学習によりどんな力が身についたか?さらにどんな力を身に着けたいか?これから伸ばしたいことは?

成長したこと・身についた力

- 自分の意見を書き出す力、言う力、わかりやすく伝える力がついた。
- チームで協力して計画や設計をする力
- グループで話し合ったり、何かを作ったりするのが楽しかった。
- 挑戦するのが楽しかった。
- 失敗してもくじけず挑戦し続ける力がついた。
- どうやれば相手にわかりやすく伝えられるか考える力
- 色々な人と関わる力
- 街の人たちと協力できたのが嬉しかった。

これから伸ばしたいこと、やりたい学び

- 発表する力を身に着けたい。
- 分かりやすく伝える力をつけたい。
- 計画的にやる力をつけたい。
- 相手の立場を考える力、思いやりの力
- スムーズに話し合える力
- 地域の人を巻き込んだ活動がしたい。
- 他学年と一緒に学習したい。
- エンタメなどの活動で人を楽しませたい。
- 新しいアイデアを考える力

2 中学校での主な意見

探究的な学習によりどんな力が身についたか?さらにどんな力を身に着けたいか?これから伸ばしたいことは?

成長したこと・身についた力

- 自分で疑問を持ち、課題を立て、調べてまとめる力
- 明確な答えがない問題について自分なりに考える力
- 自分から学びに行く力
- まずは自分で行動し、調べて、試行錯誤する力
- 仲間と意見を取り入れながら学ぶ力
- 他の人と意見交換する中で発見があった。
- 計画して行動する力
- 自分の意見だけにこだわりすぎず、バランスを見て調整する力

これから伸ばしたいこと、やりたい学び

- 調べて終わりではなく、実際に試してみること
- 自分で実際に行ってみたり、体験すること
- 自分で仮説を立て、実験して考察をまとめること
- 自分の意見をみんなに伝えて考察をつくる。
- もっと自由に自分の興味のあることを学習したい。
- 自分の意見とは違う考えを知ることによって新しい発見ができること

3 高等学校での主な意見

探究の時間などでの活動を通して、どのような力が育ったか?小・中学校でやりたかったこと、できることは何か?

成長したこと・身についた力

- 課題を自分で設定し、解決まで企画・実行する力がついた。
- 一つの視点にとらわれず多角的に考える力
- 探究心をもって疑問を深める力
- 企業と連携しゼミ活動を行った。
- 敬語や礼儀、実用的な力がついた
- 探究した内容をまとめる力とプレゼンする力
- 協力、分担しながら目標に向かって活動する力が身についた。

小・中学校でやりたかったこと

- 課題設定や疑問の見つけ方を学びたかった。
- PowerPointやExcelの使い方を小中で学んでおきたかった。
- 大人とのやり取りの機会が欲しかった。
- 外部との連携に慣れておきたかった。
- 知らない人の前で発表する機会がもっとほしかった。
- チームでの協力・分担を学びたかった。
- 企業や行政へ連絡するときのマナー
- 活動を評価される機会があると、客観的な視点を得られる。

4 教職員の主な意見(探究的な学び関係)

探究的な学びの実施により、子どもにどのような変化・成長を感じましたか？

- 自分たちで設定したテーマの解決に向けステップを着実に踏み、行き詰まり時には解決策・回避策を見出す姿が見られた。
- 学校内で終わらせず、地域へ発信しアドバイスを得ていた。
- 最後まで諦めないことの大切さを実感し、その学びが他教科にも活かせる姿が見られた。
- 関心に沿って進めることを起点に、成長を学校の外へ発信し、誰かに広める実践が見られた。
- 地域の方と連携する中で意欲が高まり、課題に関わる人とのつながりを実感していた。

実施してよかったこと、特に印象的だったこと

- 交流や体験を通じて、やる気や達成感を感じていた。
- 有能な他者との出会いで考えの地平が揺さぶられる経験や、メンバー同士の議論、対話とフィードバックの機会を通じて、互いの考えを行き来させる場が生まれた。
- 活動後に「もう一回やりたい」という声が出たのが嬉しかった。
- 子どもたちの「やらされている」ではない、本気で取り組む姿が多く見られた。
- 意見が対立したときに、話し合っ解決しようとする姿勢が育っていた。

探究的な学びを進める上で工夫したこと、意識していることは？

- 子どもが選択できるよう、複数のテーマやアプローチを用意した。
- 問いが深まるような投げかけを意識的に行い、対話を重ねるようにした。
- 活動後に改善や修正の機会を設けることで、子ども自身が学びを振り返り、次につながる姿勢が育まれていた。
- 教員側も一緒に学ぶ姿勢を見せることで、子どもたちの主体性を引き出せた。
- 探究活動と日常の強化学習や生活指導とのつながりを意識して取り組んだ。

今後の展望や、課題として感じていることはありますか？

- 学年間・学校間の接続をどう確保するか、継続性ある設計が必要
- 指導者側の理解やスキルに差があるので、研修や情報共有の場が求められる。
- 「探究の時間」が他教科とどうつながるか、全体のカリキュラムマネジメントが課題
- 子どもの内発的動機を起点としつつ、全体としての方向性も見えるようにする必要がある。
- 小・中・高を通じたカリキュラムの系統性を意識した探究の設計が必要

4 教職員の主な意見(支援教育関係)

特別支援学校教職員の意見

- 特別支援学校の教員による訪問であるが、要請訪問の場合は、学校側も解決したい課題等が明確になっているが、計画巡回訪問については目的等がわかりにくくなっている。
- 計画巡回訪問をより有益なものにするため、中学生になったら希望制にするとか、学校や担当者が解決したい点を明確にするなど、ニーズに応じた動きができるとよい。
- 中学校には、グレーゾーン、発達障害の子などを対象とした、児童精神科の巡回訪問などがあつたらよい。
- 経験のあるリハ専門職が巡回訪問に同行してくれると、経年で児童生徒を見ているので、子どもの成長だったり、過去の経過を含めて、情報提供したりすることができる。

- 今後、センター的機能の充実を図っていくのであれば、安心感・安定感を考えると専門職のマンパワーは重要だ。特別支援学校間の専門職の配置方法も検討が必要だ。
- サポートノートの情報や、療育センター等の情報が一元化や共有されると早期支援につながる。就学前に療育センターを利用して、小学校や聾学校に就学してくる。
- 文字情報だけでなく、当時の写真だったり、ショートで子どもの動画だったり引き継ぎで残せると、文字で伝えるより、的確に情報を伝えることができる。視覚的に子どものよい状態が伝わりやすい。
- 専門職も研修の機会が欲しい。学会に参加できるとよい。
- 川崎市でも専門職の研修について、独自の仕組みがあるとよい。事例を用いた研究会を、職種を越えて行ってもよい。



4 教職員の主な意見(働き方・仕事の進め方関係)

働き方改革の取組について実践校で出た意見

- オープン授業にしていつ見に行ってもいいスタイルにする。
- 半期に一回だけ研究授業を行う。
- 夏休みの短期間に集中して研究を行う。
- 宿題の丸付けは家庭で行う。
- テストをGIGA端末で行う。
- 宿題はドリルパークで実施する。
- 週1回から2回は何もなしの放課後を作る。
- テストに代わるものを作る。
- 宿題を学校として減らしていく。
- 全職員参加のカリキュラム部会を設立する。
- 時程を短くする。モジュール15分を導入する。
- 月木は掃除の時間をなしにする。
- 清掃のない曜日を増やす。

ステージ別研修での働き方改革に関する意見

- 部活動が就業時間超過の主な原因となっている。
- 仕事を減らす努力と業務の優先順位の明確化が必要だと感じた。
- 時間の使い方を見直し、パフォーマンス向上をめざしたい。
- 先生の実践が大切であり、自分に合った働き方を見直したい。
- 働き方改革は時間削減だけでなく、集中力の使い方も重要だと感じた。
- 教材研究の時間を単元ごとにまとめて効率化したい。
- 周囲との連携を大切に、仕事の優先度を把握して効率的に進めたい。
- 周囲の目を気にせず、自分のやりたいことに集中したい。
- タイムマネジメントを徹底し、有意義な時間の使い方をしたい。
- 先生の実践が子どもにとって重要なので、余裕を持った働き方をしたい。
- 無駄を省き、定時退勤をめざし、周囲の助けも活用したい。
- 短時間集中型で効率的に仕事を終わらせたい。
- 仕事内容の優先順位を決め、時間内に仕事を終わらせるよう努力したい。
- 仕事への柔軟な対応と妥協、優先順位の設定が重要だと感じた。
- 月・日ごとのTo Doリストで生産性を向上させたい。

5 川崎市PTA連絡協議会での主な意見

学校・家庭・地域の連携強化

- 地域の人材や施設(市民館・図書館など)を、子どもや保護者が学び合う場として積極的に活用すべき
- 外部人材や地域ボランティアとの共同の学びの機会によって、先生との思いを共有するしくみを作ってほしい。
- 学校と保護者・地域の間での情報共有やコミュニケーションのしくみの改善・整備が必要

地域と大人の学びの充実

- 大人も学べる場を増やし、世代間交流や相互理解を促進
- 生涯学習拠点(市民館など)の認知度向上と活用促進
- 新しい人が参加しやすい地域活動のしくみづくり

子どもの多様な学びと居場所づくり

- 「正解は一つではない」という価値観を広め、子どもの主体性を尊重する学び(コーチング型)を推進
- 探究的な学びの質ややり方を学校間で共有し、方向性をそろえる工夫が必要
- 学校外の場を通じて、興味関心を伸ばす。
- 不登校や多様なニーズに応じた、年齢や成長段階に合わせた居場所・活動内容の整備が必要

教職員の働きやすい環境づくり

- 教員に選択肢を与え、責任の押し付けにならない運用が必要
- 国際的背景を持つ児童生徒への対応や個別配慮の負担を軽減するしくみづくりが必要

6 地域教育ネットワーク推進会議での主な意見

学校・地域の連携と見える化

- 地域の活動内容を「見える化」することが必要
- 先生と地域の人が思いを共有できるしくみがあると、連携がスムーズになる。
- 地域と学校が一体となって協力する姿勢が、学び合う社会づくりに欠かせない。
- 活動を続けることは大事だが、新しい人が入りやすいしくみも必要

地域資源・施設の活用

- 図書館や市民館を、子どもが自由に探究できる場として活用できる。
- 市民館は生涯学習の拠点なのに、認知度が低く活用されていないのがもったいない。

探究の推進と方向性の共有

- 地域の人と一緒に体験活動をすることで子どもたちの学びが広がる。
- 総合的な学習の時間は、探究心を育てるチャンスで、外部人材の活用も大事
- 探究の方法が学校ごとに違うので方向性を共有する工夫が必要
- 社会参画の促進が探究的な学びの出発点になるという意識が必要

居場所・生涯学習・世代間の学び

- 地域のボランティア活動に子どもが関わることで、居場所づくりにもつながる。
- 人とのかわり合いが生涯学習の核になるので、つながりを生む場づくりが重要
- 子どもだけでなく大人も学べる場があると、世代を超えた気づき生まれる。

7 社会教育委員会議での主な意見

- 生涯学習は市民の自由で主体的な学びであり、その自由を保障するための条件整備や環境づくりとして社会教育がある。市民館や図書館が社会教育施設であることを明記すべき
- 社会教育の理念を生かし、生涯学習の再定義を図るような視点が必要ではないか。
- 地域学校協働活動と学校運営協議会の関係性について、資料中でもう少し統括的に整理して記載してほしい。
- 地域学校協働活動では、大人と子どもが参加して学びを得ることができる。そういった整理が必要だ。
- 教職員の働き方改革は、学校教育だけでなく地域との連携を通じて進めるべき
- アンケートの「地域で知識や技術を生かしたいと思う人」の中で「どちらともいえない」と回答した36%の層に注目し、社会教育の可能性として活用すべき
- どのようにしたら自分の知識や技術を地域や社会に活かすことができるようにしていけるかについて、幅広い議論が必要
- 川崎市らしい人権を、きちんと入れてほしいし、子育てをしやすいなど最近の時代背景を取り入れてプランを充実させてほしい。
- つながりとか学び合ってそう簡単にできるものではない。そういう意味では理念的になっている

8 スクールミーティングでの主な意見(教育委員による授業視察と意見交換会)

「探究的な学び」の推進について

- 「探究的な学び」は、総合的な学習の時間以外の教科でも有効的である。学びを深めるため、常に子どもたちの「なぜ」という問題意識や、他者の考えを尊重することを大事にして、できるだけ自分の言葉で説明させ、全員で授業をつくっていくことが大切である。
- 「探究的な学び」を取り入れた授業においても、子どもによる学習の進み具合に違いが出る。書く力やまとめる力が弱い子などが、自ら学習を進め、それぞれの学ぶ力の特性に応じた授業を行っていく必要がある。
- ひとくちに探究といっても、小学校の低学年と高学年では、ねらいや学び方などは当然異なってくる。各学年の発達段階に応じた指導が求められるので、教員の指導力の向上につながってくる。教員にとっては大きな挑戦になると思う。
- 「探究的な学び」をはじめとする各教科の学習活動において、GIGA端末を使用する際は、使うべきときと、使わせないで自分でしっかりと考えてほしいときといった、学習の目的や場面に応じた適切な使い分けを重視している。

9 不登校対策懇談会での主な意見(不登校児童生徒への支援の充実を図るために、学識経験者や支援団体等と意見交換を行う場として設定している会)

連携体制の整備について

- 小中の引継ぎの際には小学6年生時点の情報に限られることがあり、6年間分が積み重なった情報が引き継がれるといい。
- 小中間でグループを作り、グループとして守秘義務を保ちながら情報共有をできるといい。

多様な学びの確保について

- 別室の一番の役割は、別室だったら行けるといふ子の居場所。課題は勉強をしようと思った時に教員がいないこと。別室とゆうゆうの役割の分担とスタッフの連携が重要になってくる。
- 一部の教員には、児童を何とかして教室に戻そうとする意識が根強く残っている。別室指導やゆうゆう広場が果たす役割やその有効性について、学校全体で理解を深めることが重要である。

保護者の安心につながる支援について

- 保護者が多忙な状況でも支援にアクセスできるよう、土日等の参加しやすい機会の設定が求められる。また、民間団体との連携も重要である。
- 保護者支援においては、当事者の声を聴くことが重要である。保護者自身が支援に関する情報を持っている場合も多く、校長や支援教育コーディネーターが当事者の意見等を生かせるような場づくりが求められる。

教職員への支援について

- 特別支援学級の教員の質の確保が必須。また、教員の負担が課題であり、担当教員がハブとなり、学校全体で取り組む体制が必要。

以下、断りのない限り、川崎市または川崎市立学校に関するデータを年度で示しています。

(1) 学校数・学級数・児童生徒数・教員数・職員数

令和7年5月1日現在

区分	学校数 (校)	学級数 (級)	児童生徒数(人)			教員数 (本務者) (人)	職員数 (本務者) (人)
			男	女	計		
合計	176	4,233	54,918	51,589	106,507	7,050	355
小学校	115	2,894	36,837	34,908	71,745	4,252	245
中学校	52	1,039	15,627	14,405	30,032	1,982	83
高等学校	5	133	2,024	2,049	4,073	410	8
(全日制)	5	95	1,767	1,819	3,586	312	7
(定時制)	4	38	257	230	487	98	1
特別支援学校	4	167	430	227	657	406	19

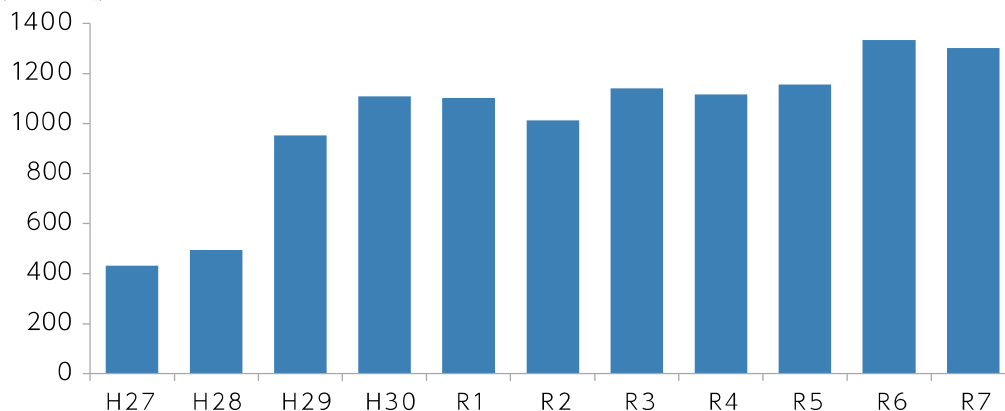
※ 高等学校は、全日制課程と定時制課程を併置(幸高等学校を除く)

※ 特別支援学校は、分校(1校)を含む。また、聾学校幼稚部を含む。

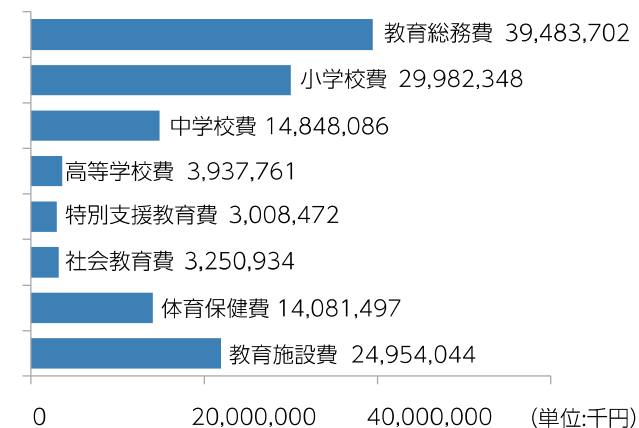
※ 児童生徒数及び学級数は、特別支援学級を含む。夜間学級は含まない。

(2) 教育費の当初予算の年度別推移

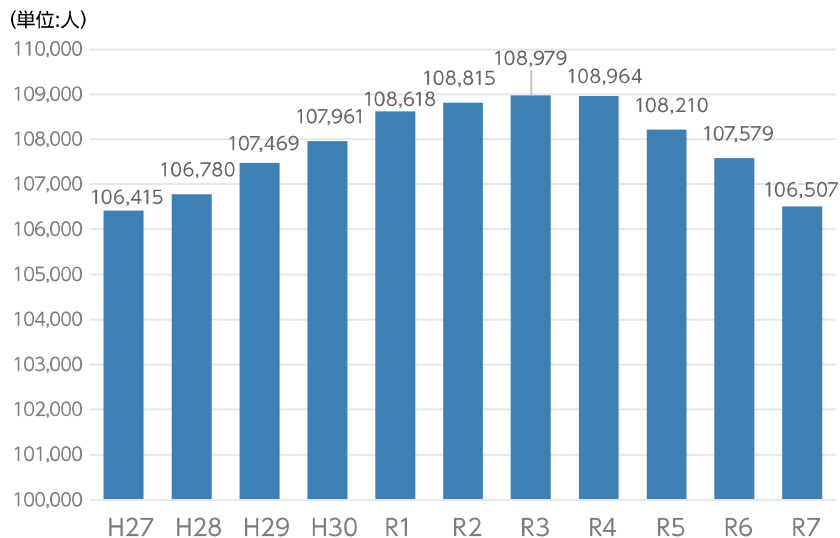
(単位:億円)



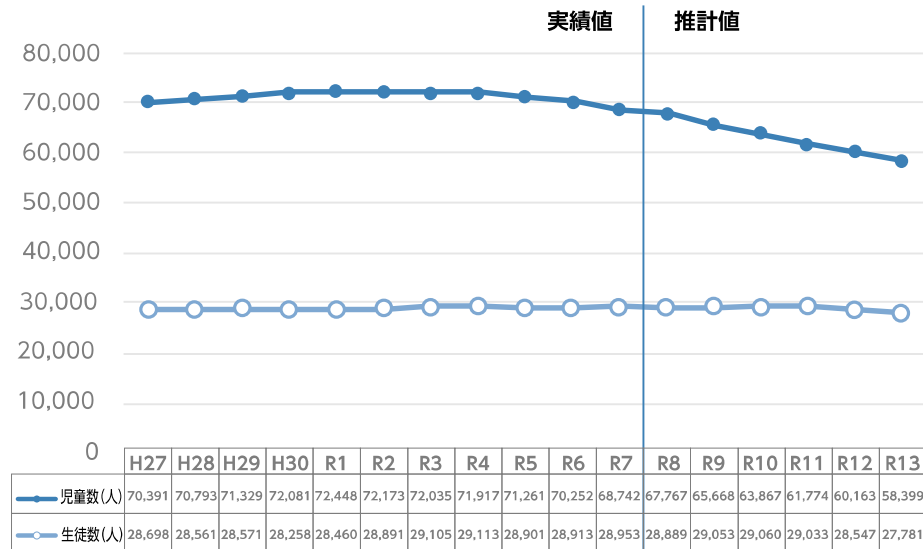
■ R7年度費目別歳出予算額



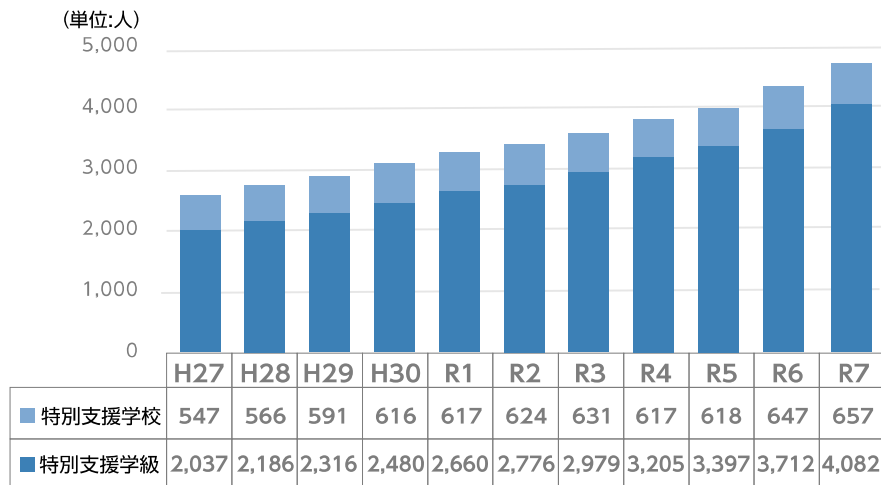
(3) 児童生徒数の推移 (小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)



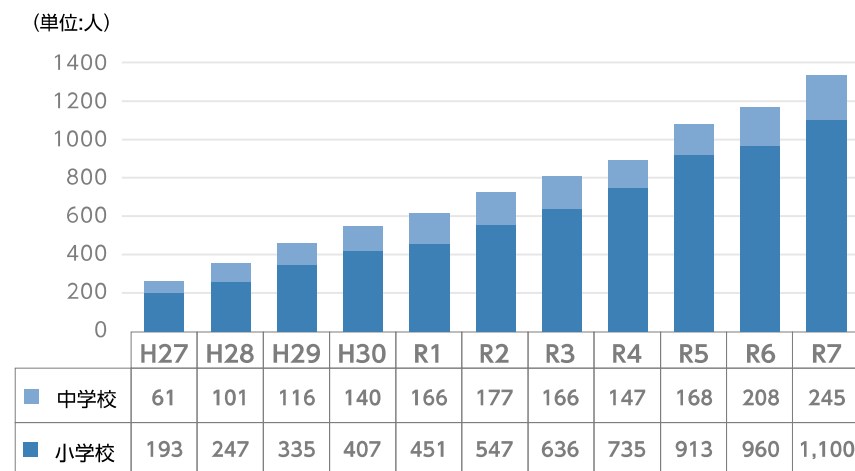
(4) 児童生徒数の推計 (小学校、中学校の通常の学級に在籍する児童生徒数)



(5) 特別支援学校・特別支援学級在籍者数の推移

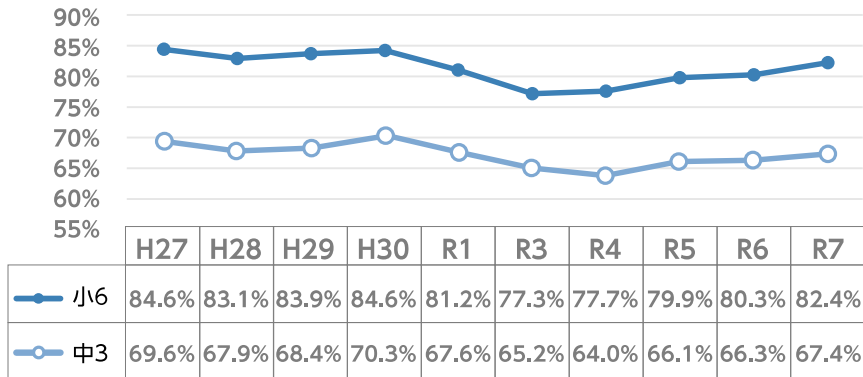


(6) 日本語指導が必要な児童生徒数の推移



(7) 児童生徒の自己肯定感の推移

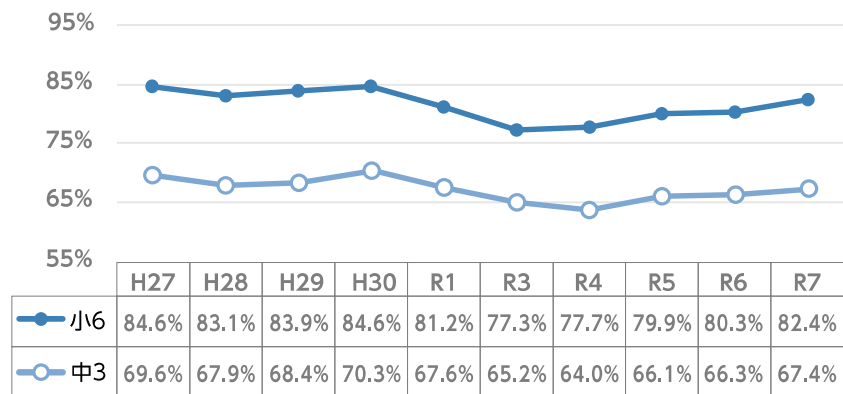
(「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した割合)



※出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成
 ※令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

(9) 児童生徒の将来に関する意識の推移

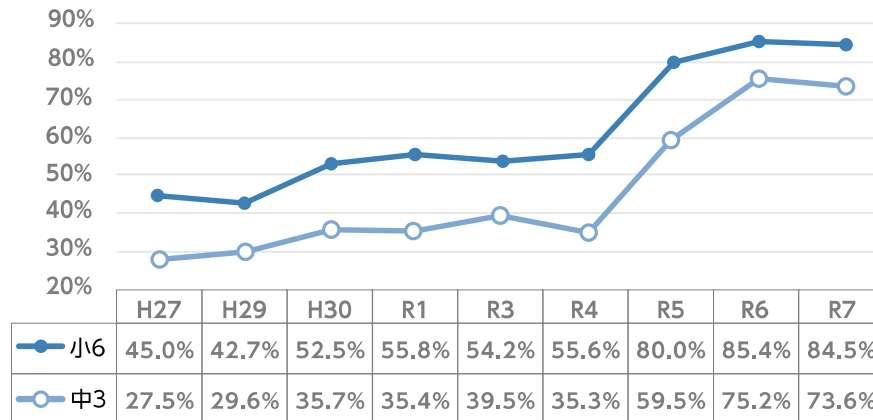
(「将来の夢や希望を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した割合)



※出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成
 ※令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

(8) 児童生徒の社会参画の意識の推移

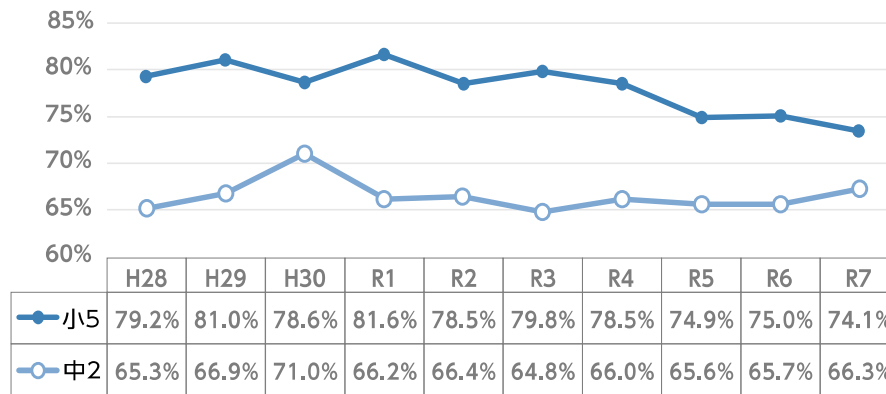
(「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した割合)



※出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成
 ※令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

(10) 児童生徒のチャレンジ精神の推移

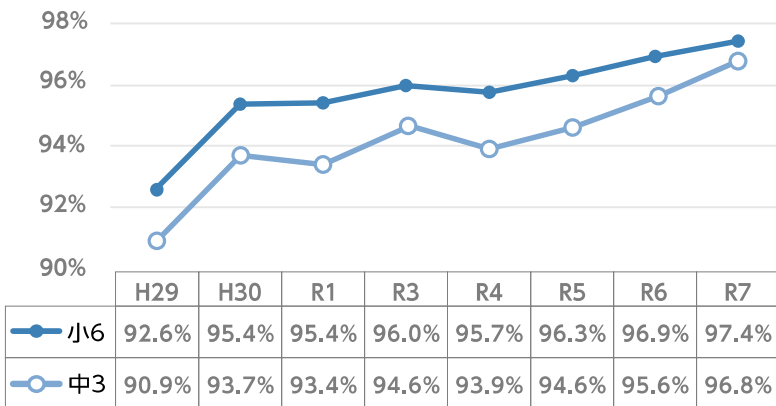
(「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した割合)



※出典:「川崎市学習状況調査」をもとに作成

(11) 児童生徒の自己有用感の推移

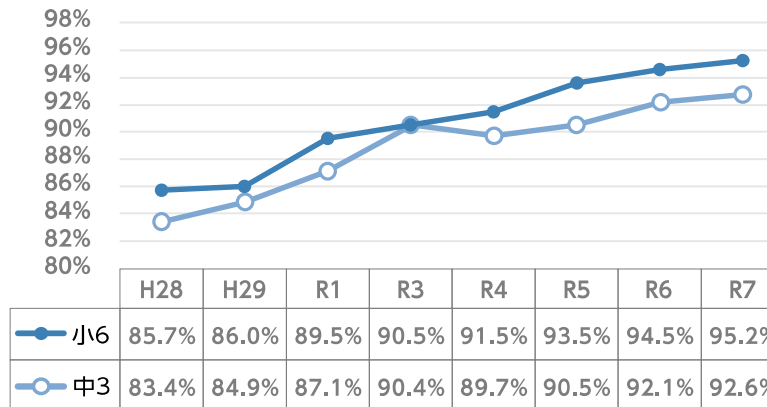
〔人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う〕と回答した割合



※出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成
 ※令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

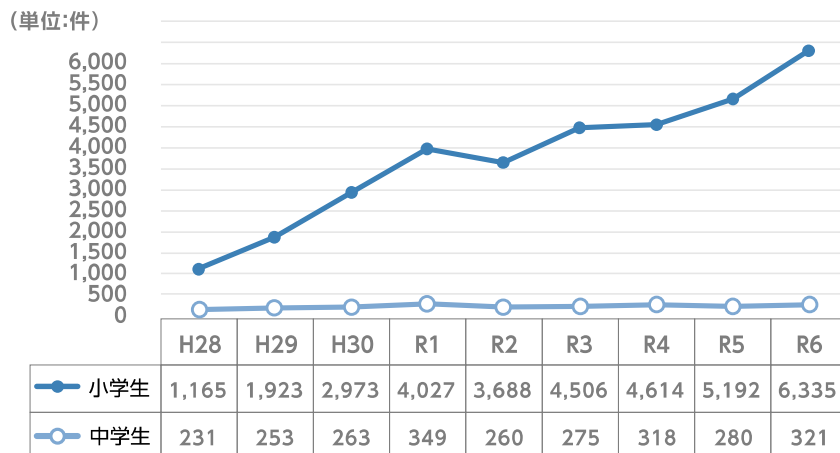
(12) 児童生徒の規範意識の推移

〔人が困っているときは、進んで助けている、どちらかといえば助けている〕と回答した割合

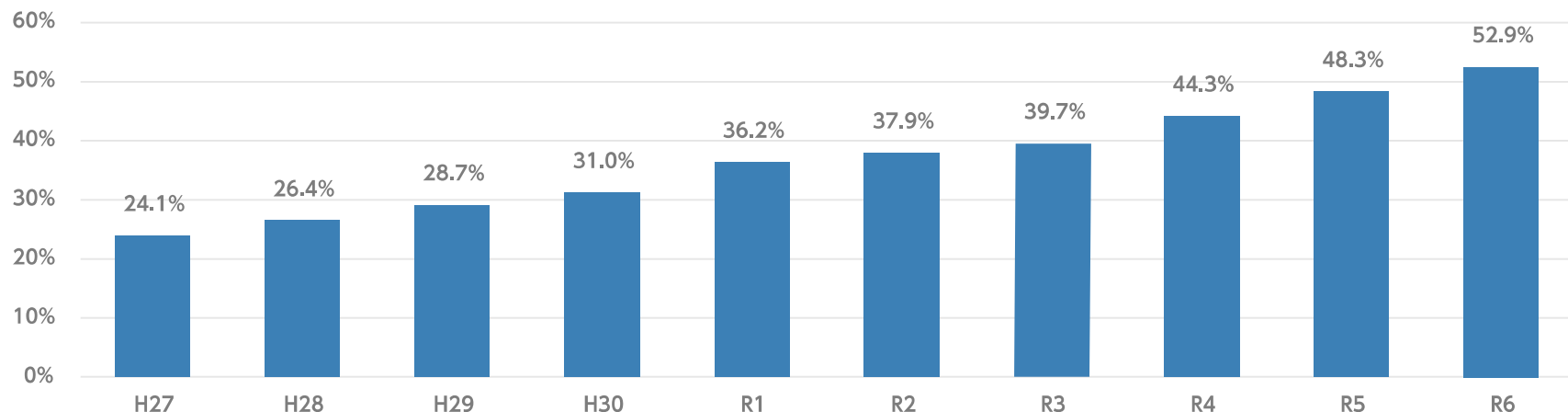


※出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成
 ※平成30(2018)年度は質問項目なし、令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

(13) 川崎市立小・中学校におけるいじめの認知件数の推移

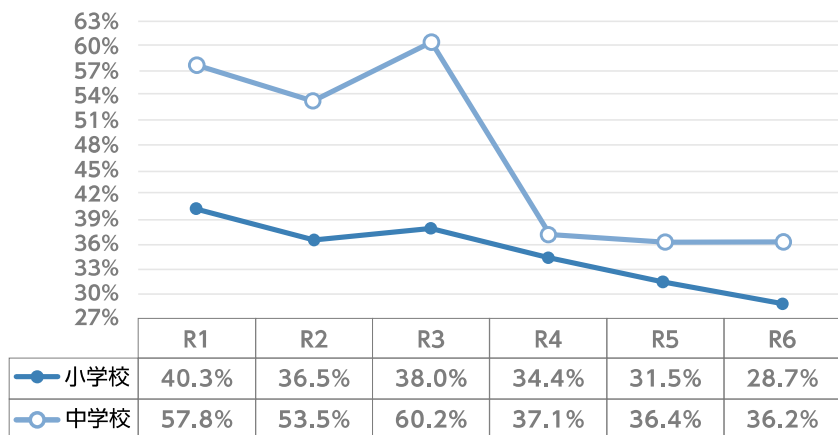


(14) 老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合の推移

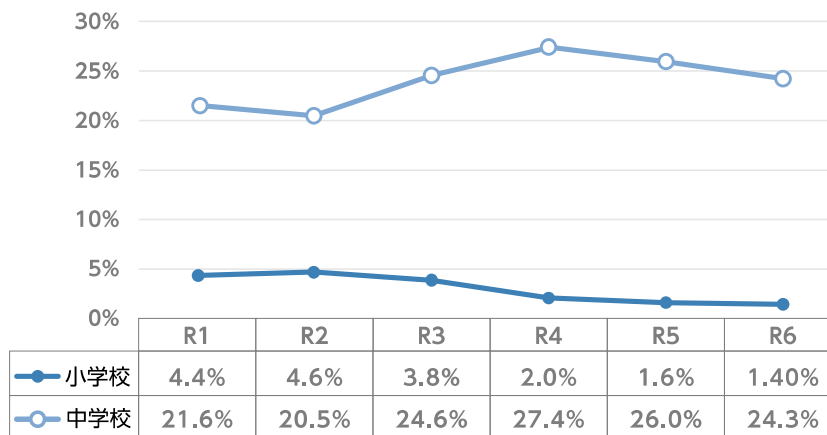


(15) 教員の1か月あたりの時間外在校等時間の推移

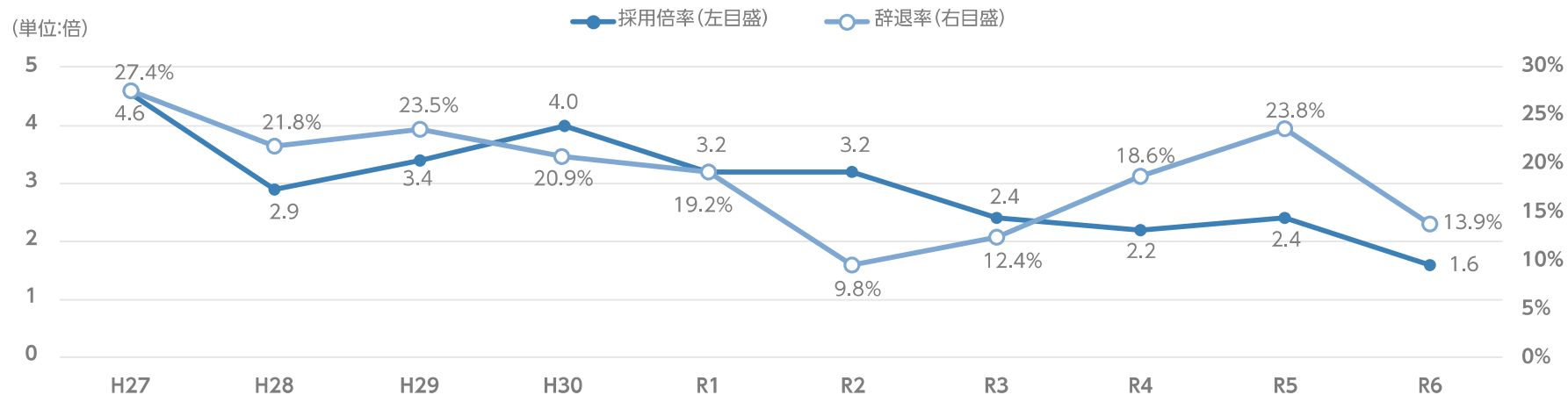
(45時間～80時間未満)



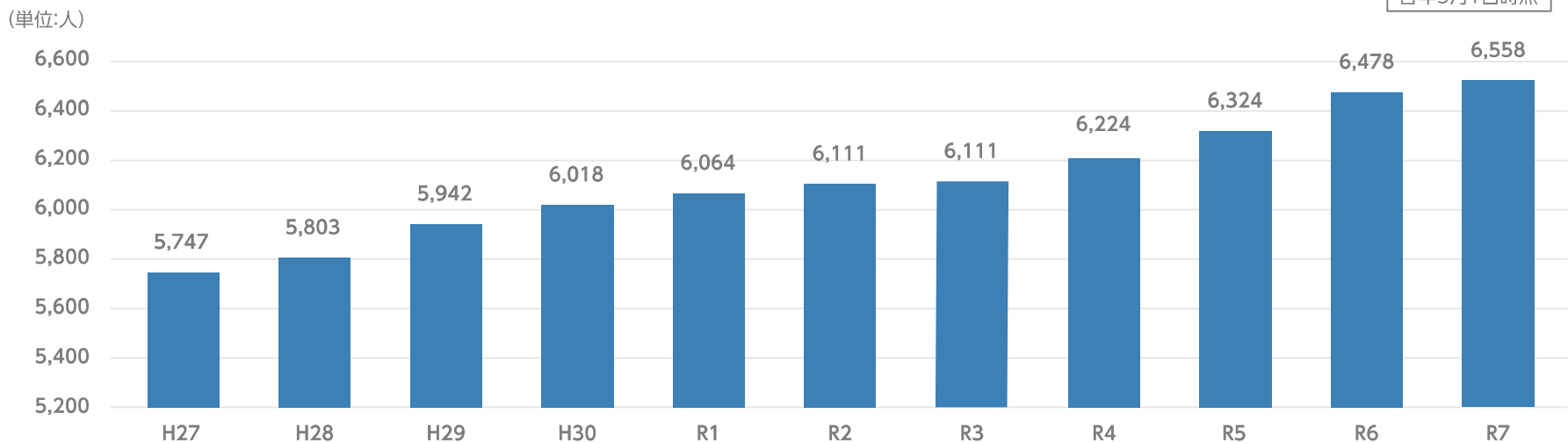
(16) 教員の1か月あたりの時間外在校等時間の推移 (80時間超)



(17)川崎市立小学校 教員採用試験の採用倍率・辞退率の推移

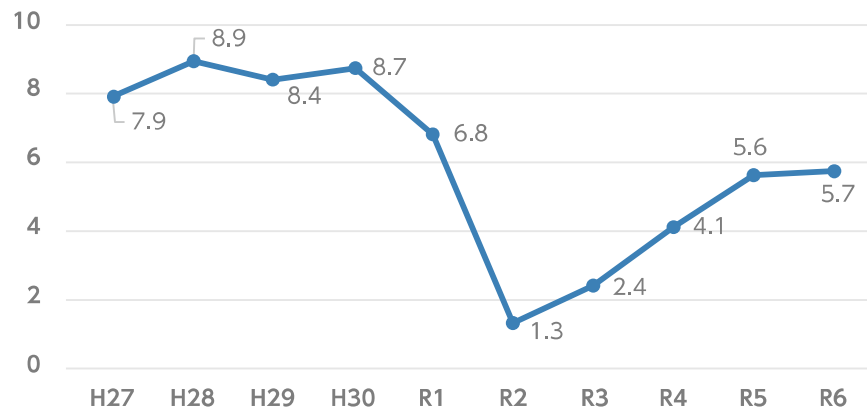


(18)川崎市立学校教員の定数の推移



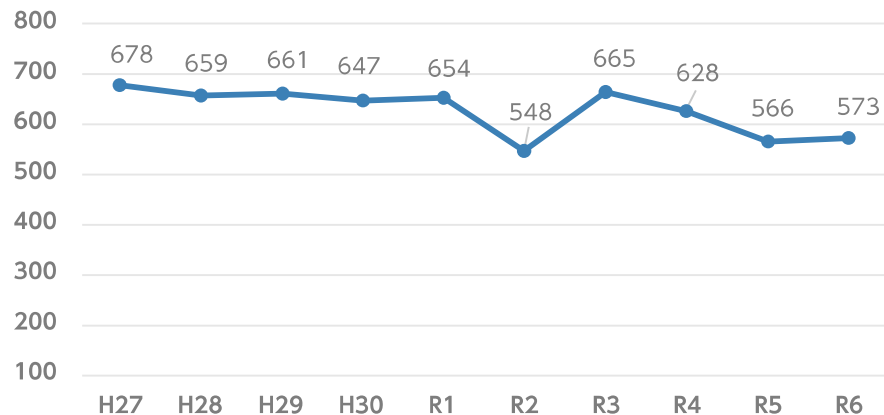
(19) 市民館等の社会教育振興事業参加者数の推移

(単位:万人)



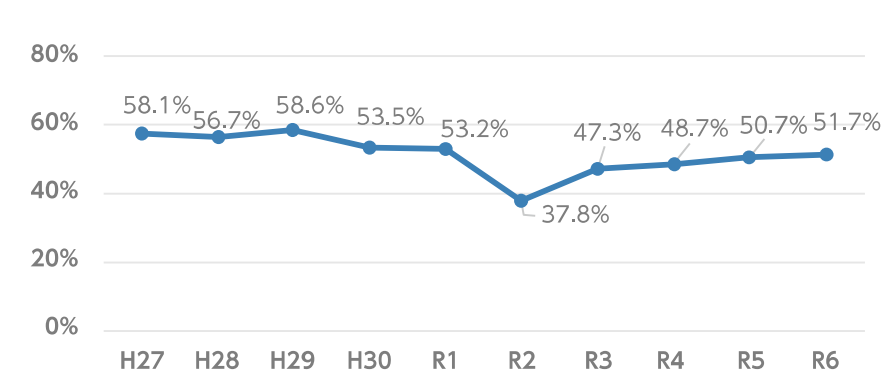
(21) 図書館における個人への貸出冊数の推移

(単位:万冊)



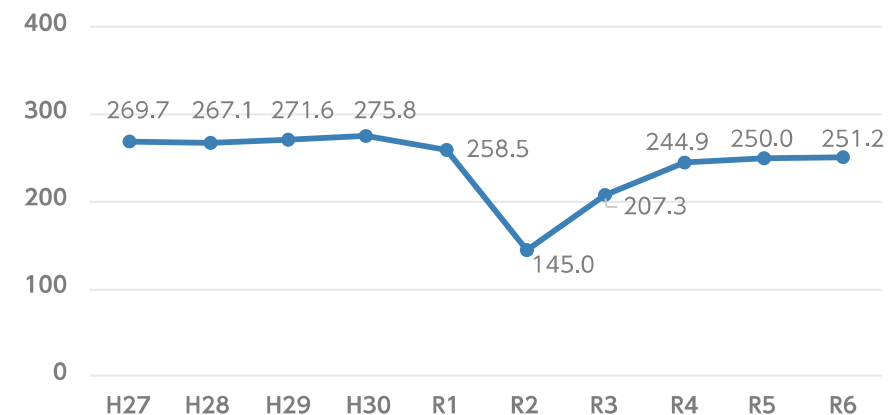
(20) 教育文化会館・市民館・分館施設利用率の推移

100%



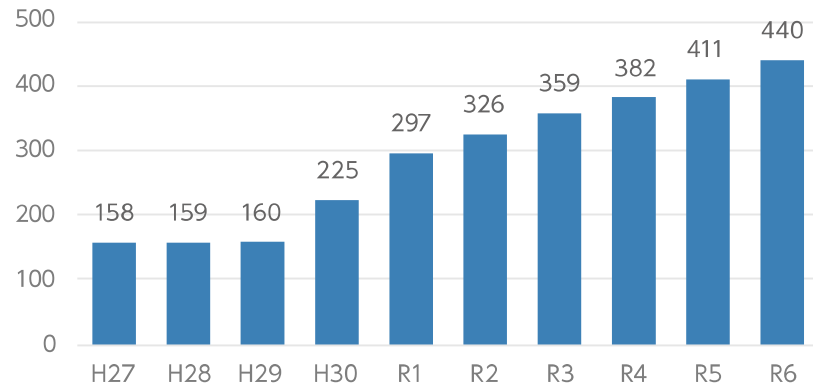
(22) 学校施設開放の利用者数の推移

(単位:万人)



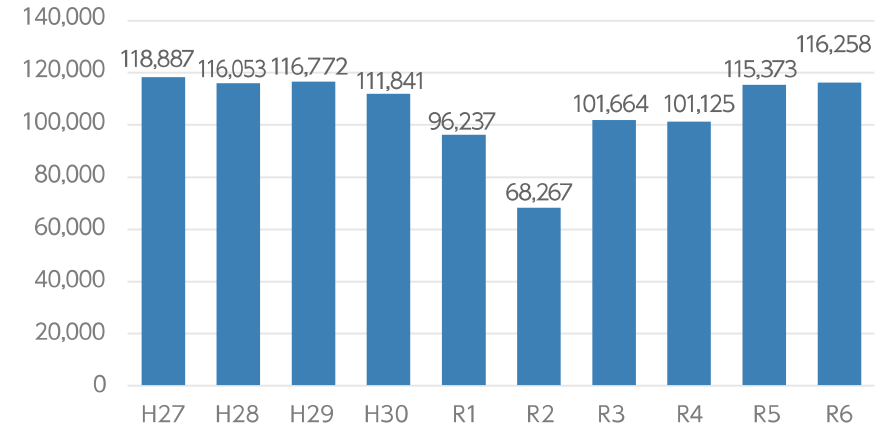
(23) 市内の指定・登録等の文化財及び 「川崎市地域文化財顕彰制度」に基づく地域文化財の件数

(単位:件)



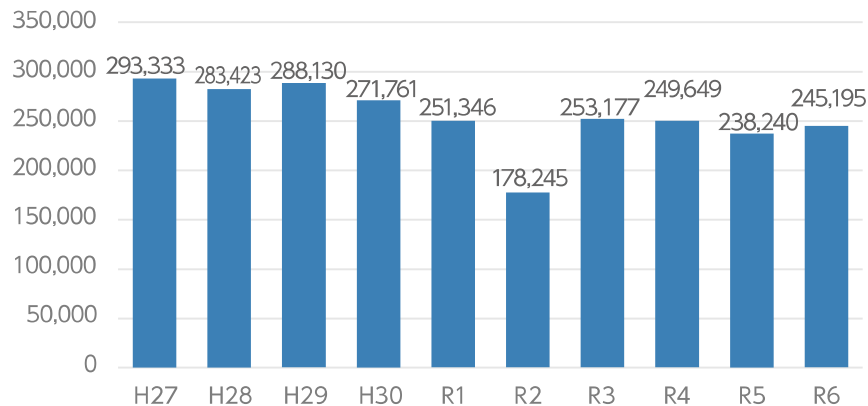
(24) 日本民家園の入園者数の推移

(単位:人)



(25) かわさき宙と緑の科学館の入園者数の推移

(単位:人)



(1)個別計画等の一覧

計画名	期間	関連する事務事業、Key Project
市立高等学校改革推進計画	R2～R11	・高校改革推進事業
不登校対策の充実に向けた指針	R6～	・不登校対策推進事業 【Key Project2】
未来を育む学校 サポートプログラム	R8～R11	・教職員の働き方改革推進事業 【Key Project3】
学校施設長期保全計画	R8～R19	・学校施設長期保全計画推進事業
市立学校体育館等空調設備 整備方針	R8～R15	・学校施設環境改善・維持管理事業
学校施設の更なる 有効活用に向けた実施方針	R6～	・学校施設有効活用事業
新しい宮前市民館・ 図書館基本計画	R2～	・社会教育施設の環境整備事業
労働会館及び教育文化会館 再編整備基本計画	R3～	・社会教育施設の環境整備事業
(仮称)川崎市民館・労働会館 管理運営計画	R4～	・社会教育施設の環境整備事業
幸市民館・幸図書館改修 基本計画	R6～	・社会教育施設の環境整備事業

計画名	期間	関連する事務事業、Key Project
今後の市民館・図書館のあり方	R3～ 概ね10年間	・社会教育振興事業 ・図書館運営事業 ・生涯学習施設の環境整備事業 ・家庭教育支援事業 ・社会教育関係団体等への支援・ 連携事業 【Key Project4】
市民館・図書館の管理・ 運営の考え方	R4～	・社会教育振興事業 ・図書館運営事業 ・生涯学習施設の環境整備事業 ・家庭教育支援事業 ・社会教育関係団体等への支援・ 連携事業 【Key Project4】
青少年科学館運営基本計画	R5～	・博物館管理運営事業
文化財保存活用地域計画	R6～R15	・文化財保存・活用事業
史跡橘樹官衙遺跡群保存 活用計画	R8～R19	・橘樹官衙遺跡群保存整備・ 活用事業
史跡橘樹官衙遺跡群整備 基本計画	R8～R19	・橘樹官衙遺跡群保存整備・ 活用事業

(2) 計画期間終了後に更新しない計画

計画名・期間	「読書のまち・かわさき」子ども読書活動推進計画(第4次)【R4～R7】	第2期川崎市特別支援教育推進計画【H27～R7】	川崎市立学校における教育の情報化推進計画【R4～R7】
主な取組成果・実績等	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの読書活動を推進するための普及啓発や仕掛けづくりに関する取組はおおむね達成 ●学校司書については、R6年度までに小学校全校に専任で配置を完了 ●小学校全校へ配置した専任の学校司書と、中学校等を巡回している総括学校司書の役割分担等も踏まえ、効率的・効果的な活用に向けた配置の最適化が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ●現行計画の取組については、ほぼ目標どおり達成 ●支援を要する児童生徒の増加や支援ニーズの多様化等を踏まえ、異校種間の縦の連携や、保健・医療・福祉の関係機関等との横の連携など学校の支援体制の整備等が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育の情報化に関する課題を項目ごとに整理し、方向性を教育委員会事務局及び各学校に対する明示に有効 ●教育の情報化をとりまくデジタル技術等は、絶え間なく発展し、複数年にわたる詳細な計画や手順等を示すことが難しくなっていることや、環境整備を中心に教育の情報化を進めてきたが、社会のデジタル化の進展によって、デジタル技術を活用した教育の在り方や学校運営の変革が必要となっていることが課題
理由・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ●第4次計画の振り返り結果を踏まえ、今後、計画的に取り組む必要のある学校図書館の充実に向けた取組は、次期教育プランに位置付けた上で、中学校等への学校司書配置の具体的な内容等について、基本的な考え方をとりまとめる。 ●家庭や地域、学校における子どもの読書活動全般については、「読書のまち・かわさき」事業推進会議を通じて関係者間で取組状況等の共有や意見交換等を行い、調整や連携を図りながら読書活動の推進や充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現行計画では支援教育の在り方や方向性を示しながら、年度ごとの取組内容については実施計画としての「第2次プラン」の「基本政策Ⅲ一人ひとりの教育的ニーズに対応する」の事務事業「特別支援教育推進事業」に位置づけ、プランにおいて進捗管理を行っていた。 ●全庁的に個別計画を見直す方針の中、支援教育に関する施策については、教育施策の全体計画である「第3次プラン」のKey Projectや各事務事業に位置づけることでプランに包含させる。進捗管理は、引き続きプランの中で行うこととする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画として進捗管理する内容は「第3次プラン」に位置づけ、包含させる。 ●今後も現行計画が担っていた学校等との情報化に関する方向性の共有や、「第3次プラン」に位置づけた事業の具体的な取組の整理のため、「川崎市立学校におけるかわさき教育DX推進方針」を作成する。
「第3次プラン」の位置づけ等	<ul style="list-style-type: none"> ●「第3次プラン」第3章 3施策及び事務事業 施策2「豊かな心を育む体験活動推進事業」 ●「市立学校における読書活動の推進に向けた基本的な考え方」を作成(R8年1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●「第3次プラン」第3章 2Key Project 「Project2 組織等の枠を越えた連携による切れ目のない支援」 ●「第3次プラン」第3章 3施策及び事務事業 施策3「特別支援教育推進事業」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「第3次プラン」第3章 3施策及び事務事業 施策1「教育DX推進事業」 ●「川崎市立学校におけるかわさき教育DX推進方針」を作成(R8年3月)

6 語句説明一覧

語句	説明	掲載
あ		
アントレプレナーシップ教育	さまざまな困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神のことであり、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探究したりすることができる知識・能力・態度を身に付ける教育	55,56
医療的ケア児	病院などの医療機関以外の場所(学校や自宅など)で日常的に継続して行われる、喀痰吸引や経管栄養、気管切開部の衛生管理、導尿、インスリン注射などの医療行為を必要とする児童生徒のこと	43,44
インクルーシブ教育システム	人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶこと	43,44
インクルージョン	すべての人が組織や社会の一員として受け入れられ、それぞれの多様性を活かして活躍できる状態のこと	19
ウェルビーイング(well-being)	OECDの国際報告書では、「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働き(functioning)と潜在能力(capabilities)である」と定義している。心身の「良好な状態」や「すこやかさ」「幸福度」という言葉で翻訳されることが多い。	12,14,25,26,83
か		
学校e～ね★サミット	各市立学校が「わたしたちのまち川崎」に着目した学習活動を交流・発信することを通じて、まちへの愛着を深め、よりよいまちづくりについて考える子どもたちを育てる取組	17,55
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	保護者や地域住民などが学校運営に参画することにより、学校・家庭・地域が一体となってよりよい教育の実現に取り組むために、学校運営及び学校運営支援について協議するしくみ	17,33,35,36,47,48,53,54,93

語句	説明	掲載
学校司書	学校図書館法の一部改正(平成27(2015)年4月1日施行)により、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事すると規定された職員のこと	42,104
学校徴収金	学校の教育活動上必要となる経費のうち、児童生徒の所有となるものや修学旅行等個人に係る経費等について保護者から徴収するもの	29,30,46
学校評価	学校が、保護者や地域住民等から理解と参画を得ながら、PDCAサイクルを確立する中で、学校づくりを進めるしくみ	48
かわさきGIGAスクール構想	国の「GIGAスクール構想」に基づき、かわさき教育プランの教育目標実現を目指し、児童生徒一人ひとりにタブレット端末を配備し、校内に高速な通信ネットワークを整備して、個別最適な学びや協働的な学びを推進する取組	29
かわさき共生*共育プログラム	本市が実施している参加型体験学習。体験を通して、人間関係づくりの方法を楽しく学んだり学びなおしたりすることで、自分と友だちとの豊かな関係や集団と積極的な関わりをつくりだすために必要なスキル(社会性)を育てるプログラム	44
かわさきキラキラチャレンジ	子どもたちの体力向上や運動の習慣化を目的とし、休み時間等を活用して手頃な運動や運動遊びに親しむ時間	42
川崎市学習状況調査	小学校4年生から中学校3年生までを対象にした学習状況を把握する調査。教科に関する調査(小学生:国語・算数、中学生:国語・社会・数学・理科・英語)及び学習や生活に関するアンケート調査を実施している。	39,40,41,97
川崎市子どもの権利に関する条例	平成元(1989)年に、国連で採択された「子どもの権利条約」に基づき、平成12(2000)年に全国に先駆け制定された条例	53

6 語句説明一覧

語句	説明	掲載
かわさき電子図書館	電子図書館はインターネットに接続して電子書籍を読むことができるサービスで、スマートフォン、パソコン、タブレット端末などからいつでもどこでも利用することができる。本市においては、市内在住・在勤・在学者で川崎市立図書館の貸出カードがあれば利用可能な「かわさき電子図書館」を令和5(2023)年3月から提供している。	34,50
カワサキ☆U18	通年で毎月子どもたちがテーマに沿って話し合いを行う川崎市子ども会議に加え、単発でも参加できる形態として、令和4(2022)年から開催している取組。子ども同士で話し合う機会のほか、市長や地域の大人とも話し合う機会を設けるなど、定例会議と組み合わせながら実施している。	54
キャリア・パスポート	児童生徒自身が自己の変容や成長を見通しをもち、振り返ったりしながら記録・蓄積し、小学校入学から高校卒業まで引き継いでいく教材。学習指導要領の特別活動において、「活動を記録し蓄積する教材を活用すること」と示されるとともに、文部科学省によって「キャリア・パスポート」の例示がされている。	40
教育DX	教育デジタルトランスフォーメーションの略。教育において、デジタルを活用した新たな価値の創造が行われること。なお、本教育プランでは、学校を対象とした取組を示している。	6,11,29,38,40,52,57,58,104
教員の未充足数	教員定数に対して正規教員が充てられていない場合や、産前・産後休暇、育児休業等により教員が不在となる場合において、代替となる常勤教員が確保できず、配置できていない教員数	45
協働的な学び	探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士であるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、さまざまな社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成すること(令和3(2021)年中教審答申教育課程部会における審議のまとめより)	12,39,40

語句	説明	掲載
健康給食	学校給食のめざす姿として定めたコンセプト。①とにかく「美味しい」②自然と「健康」になる③みんなが「大好きな」学校給食	38,41,42
交換授業	小学校において、学級担任がそれぞれの学級で1つ以上の教科の授業を交換して行うこと。教材研究を担当教科に集中できるため授業の質の向上が期待されるほか、複数の教員が児童に関わることで、異なる視点で指導できる等のメリットがある。	28
高等専門学校	実践的・創造的技術者を養成することを目的とした5年一貫の高等教育機関のこと	40
校内教育支援センター	自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる環境として、空き教室等を活用し設置する学校内の安全・安心な居場所	22,44
校務支援システム	教務管理(成績処理、出欠管理等)・保健管理(健康診断票、保健室来室管理等)、学籍管理(指導要録等)などの機能を有しているシステムのこと。日常的な事務処理や通知表の作成などといった、教員の業務効率化に有効	28,40,57,58
国際教室	日本語指導が必要な児童生徒が一定数以上いる学校に教員が加配され設置される。特別の教育課程に基づいて、日本語の能力を高める指導や日本語の能力に応じた各教科等の指導など、一人ひとりの状況に応じた指導を実施している。	44
子どもの権利週間	毎年11月20日を「子どもの権利の日」として設定し、その前後一週間を「子どもの権利週間」として、多くの学校で子どもの権利学習の授業実践に取り組んでいる。	53
個別最適な学び	学習者視点から、「指導の個別化」(教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子ども一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなど)と「学習の個性化」(教師が子ども一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身で学習が最適となるよう調整すること)を整理した概念のこと。これを教師視点から整理したものが「個に応じた指導」である。	12,28,39,40

6 語句説明一覧

語句	説明	掲載
個別の教育支援計画	当該児童生徒の発達段階に応じて、関係機関が適切な役割分担の下に、一人ひとりのニーズに対応して適切な支援を行うための計画	20,21
個別の指導計画	幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画	43
コミュニティ・スクール	保護者や地域住民などが学校運営に参画することにより、学校・家庭・地域が一体となってよりよい教育の実現に取り組むために、学校運営及び学校運営支援について協議するしくみ	47,48
さ		
再生整備	学校施設の老朽化に対応するだけでなく、高機能かつ多機能な施設環境、教育環境の質的な改善を行うとともに、環境対策を併せて実施する整備	45,46
時間外在校等時間	教育職員が、校内に在籍している時間及び出張等の校外で業務に従事する時間から、所定の勤務時間(休日以外の日における正規の勤務時間:通常は1日あたり7時間45分)、休憩時間及び自己研鑽等時間(自己申告による)を除いた時間	25,26,45,99
主権者教育	学校において主権者として求められる力を育成する教育であり、その目的は、単に政治のしくみについて必要な知識を習得させるのみならず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を、発達の段階に応じて身に付けさせるものである。	56
就学事務システム	学齢児童生徒の就学に関する事務を一元的に管理・処理するためのシステムで、学齢簿の編製、就学援助の申請受付・認定・支給の業務を担う。国の地方行政のデジタル化施策の一環として、地方公共団体の基幹業務システムを標準仕様書に準拠したものに移行することが義務化されており、当該システムも対象となっている。	44

語句	説明	掲載
スクールカウンセラー	臨床心理に関して専門的な知識及び経験・資格を有する者で、本人の抱える心の問題を改善・解決していく心理の専門職	24,44
スクールガード・リーダー	学校の巡回指導や、学校の防犯対策に関わる指導・助言、子どもの登下校時等の見守り活動等を行うスクールガード(学校安全ボランティア)の指導育成などを行う、警察官OBなどの防犯の専門家	42
スクールソーシャルワーカー	学校だけでは対応が困難な事例に対して、問題を抱えた児童生徒とその置かれた環境への働きかけを行い、関係機関等と連携して支援を行う福祉の専門職	24,44
スクールヘルスリーダー	学校内での研修や個別の対応が求められる子どもへの対応等について指導・助言を行い、現代的健康課題に適切に対応できるよう養護教諭の育成及び支援を行う、経験豊かな退職養護教諭等の学校保健の専門職	42
スクールロイヤー	学校のさまざまな問題に関する法務相談への指導助言、トラブルの初期対応、研修の実施等を役割とする弁護士	29
スマートロック	暗証番号やスマートフォンなどのデバイスを利用して、キーボックスやドアなどの施錠・解錠ができるシステムのこと。鍵を持ち歩く必要がなくなり、紛失や盗難のリスクも軽減できることから、日本でも利用が広がっている。	48
設備再生	給排水設備や電気設備等の設備の更新を中心に行う整備で、調理設備が多く入る給食室についても、この整備の中で、機器・設備の更新や空調の設置等を行う。	46

6 語句説明一覧

語句	説明	掲載
全国学力・学習状況調査	全国の小学校6年生・中学校3年生を対象にした学力・学習状況調査。教科に関する調査(小学校6年生:国語・算数、中学校3年生:国語・数学)及び学習や生活に関する意識調査、学校による教育活動についての調査が行われている。3年ごとに小・中学校の理科、中学校の英語の教科調査も実施している。	39,43,47,55,97,98
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために、スポーツ庁が全国の小学校5年生、中学校2年生全員を対象に行っている調査	41
た		
ダイバーシティ	年齢、性別、国籍、障害の有無など、さまざまな属性や価値観を持つ人が組織や社会に存在する状態のこと	19
橋樹官衙遺跡群	古代の武蔵国橋樹郡の役所跡である「橋樹郡家(たちばなぐうけ)跡」(高津区千年)と、隣接する郡寺跡である「影向寺(ようごうじ)遺跡」(宮前区野川本町)から構成されている遺跡	35,49,50,103
ダッシュボード	複数のデータや指標をグラフや表形式で可視化し、一覧で把握できるようにする画面やツールのこと	40,57
多文化共生ふれあい事業	日本人と外国人の児童生徒双方が互いの文化を尊重し合い、ともに生きる豊かな社会を築いていこうとする意識と態度を育てていくことをねらいとした事業。地域の外国人市民等に講師を依頼し、民族衣装を身に着けたり、楽器や遊びを体験したりするなど、多様な展開をしている。	42
地域教育コーディネーター	地域と学校の橋渡しを担うコーディネーター。中学校区地域教育会議を中心に、地域の教育力を発揮した放課後等の体験活動や学校支援活動などの、地域学校協働活動の推進する活動を行う。社会教育法に定める「地域学校協働活動推進員」にあたる。	35,48
地域交通安全員	児童生徒の通学時における交通安全及び通学路の安全を図るために、通学路上での誘導、交通整理、安全指導をする会計年度任用職員	42

語句	説明	掲載
寺子屋事業	平成26(2014)年度に「地域の寺子屋事業」として開始。教育委員会事務局から委託を受けた地域の団体等が、学校施設などを活用しながら、学習支援と体験活動を実施している。	35,38,48
特別支援教育	障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの	11,13,18,19,23,24,38,44,95,104
は		
非構造部材	柱、梁、床などの構造体ではなく、天井材や外壁(外装材)など、構造体と区分された部材。このほか、窓・ガラスや照明器具、設備機器等を含む(文部科学省学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブックより)。	46
ま		
みらいねっと	各市立学校が日常的に取り組んでいる「キャリア在り方生き方教育」の実践の発信や「探究的な学び」の発表、他校との交流を通じて、子どもたちの自主・自立、共生・協働の精神、そして「わたしたちのまち川崎」への愛着を育むことを目的とする交流会のこと	18,55,56
みんなの校庭プロジェクト	「外で思い切り遊びたい」という児童の声に応えて、放課後の校庭を児童に開放する取組。子どもたちが「公園」のように校庭を利用するために、子どもたち自身がルールづくりから関わりながら、みんながのびのびと遊べるように主体的に実施	48
や		
夜間学級	川崎市在住または在勤で、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人、不登校などさまざまな事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人、義務教育を修了していない外国につながる人等の教育を受ける機会を保障する役割を果たす。西中原中学校に設置。平成28(2016)年12月公布「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保に関する法律」第14条に規定	44,95

6 語句説明一覧

語句	説明	掲載
ゆうゆう広場	学校以外の場所において、小集団による体験活動・学習活動等を通して、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等を図り、学校への復帰や社会的自立を支援することを目的として、教育委員会が行う教育支援センター事業	22,44 94
予防保全	計画的に学校施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する整備	46
ら		
理科支援員	川崎市立小学校に配置された、理科の授業における観察・実験の支援をする外部人材(教員経験者や地域協力者、教職をめざす大学(院)生)のこと	40
A～Z、数字		
ALT	Assistant Language Teacherの略。小・中・高等学校で日本人教師の助手として外国語を教える、英語を母語とする外国人講師のこと	40
CBT化	CBT化(Computer Based Testing化)とは、従来の紙ベースの試験をコンピュータを用いた試験方式に移行すること	40,57, 58
ESD	Education for Sustainable Developmentの略。現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動	56
GIGA端末	国の「GIGAスクール構想」に基づき、児童生徒一人ひとりに配備した学習用のタブレット端末	39,40, 52,54, 57,58, 65,86, 91,93

語句	説明	掲載
Society 5.0	AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな未来社会の姿。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、人類社会発展の歴史における5番目の新しい社会の姿のこと。	14,56
SOGI	Sexual Orientation (性的指向) とGender Identity (性自認) の頭文字をとった略称。身体的な性などと共に、人間の性を構成する要素であり、誰もが有しているもの(内閣府「SOGIの多様性に関する理解と尊重を目指して」より)	52,53
STEAM教育	文部科学省では、STEM(Science, Technology, Engineering, Mathematics)に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進するとしている。	56
35人学級制	児童生徒一人ひとりへのきめ細かな指導や教員の負担軽減等を目的として、1学級の人数を40人から35人に引き下げる制度。公立小学校では令和7年度までに全学年で移行済みであり、公立中学校においても、国において令和8年度から学年進行で切れ目なく実施されることが示されている。	25

7 川崎市教育改革推進会議運営要綱・委員名簿[令和6(2024)年度、令和7(2025)年度]

(趣旨)

第1条 この要綱は、川崎市教育改革推進会議(以下「推進会議」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 川崎市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、次の各号に掲げる事項について推進会議の委員の意見を求める。

- (1) 市の教育改革等の在り方等に関すること。
- (2) かわさき教育プランの進捗状況に関すること。
- (3) かわさき教育プランの策定に関すること。

(構成)

第3条 推進会議は、13人以内の委員をもって構成する。

- 2 委員は、学識経験者、市民、本市の教職員代表のうちから、教育長が就任を依頼する。
- 3 委員の任期は2年以内とし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 教育長は、特別の事項について意見を聴取するため必要があると認めるときは、臨時委員を置くことができる。
- 5 臨時委員は、特別の事項に関する意見の聴取が終了したときは、退任するものとする。

(推進会議の招集)

第4条 推進会議は、必要に応じて教育長が招集する。

(関係者の出席)

第5条 推進会議において必要があるときは、会議に関係者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 推進会議の庶務は、教育委員会事務局教育政策室において処理する。

附則

この要綱は、平成17年4月13日から施行する。

附則

この要綱は、平成21年3月25日から施行する。

附則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和4年5月30日から施行する。

	氏名	現職等
学識 経験者	卯月 由佳	国立教育政策研究所教育政策・評価研究部 副部長・総括研究官
	岡田 弘	元東京聖栄大学健康栄養学部 管理栄養学科教授
	倉持 伸江	東京学芸大学教育学部 教育学講座生涯教育分野准教授
	高橋 純	東京学芸大学教育学部 教育学講座学校教育学分野教授
市民代表	中谷 奈穂	公募委員
	小林 進(R6) 米林 幸男(R7)	公募委員
	浦山 利博	川崎市PTA連絡協議会
	宮越 隆夫	川崎市地域教育会議行政区議長会
教職員 代表	小林 勝弘(R6) 五十嵐 聡(R7)	小学校長会
	松田 宇宙(R6) 渡辺 修宏(R7)	中学校長会
	百瀬 実	高等学校長会
	稲葉 武	特別支援学校長会
	石村 卓也	川崎市教職員組合



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

第3次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン 第1期実施計画

令和8(2026)年3月

川崎市教育委員会事務局教育政策室

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-3244 FAX 044-200-3950 Eメール 88seisaku@city.kawasaki.jp